

田辺市のひきこもり支援

(窓口開設 24年目の報告)

ひきこもり相談窓口

ひとのわ



令和6年4月～令和7年3月

和歌山県田辺市

目 次

I. 田辺市におけるひきこもり支援	
1. 田辺市ひきこもり支援 1
2. 田辺市ひきこもり相談窓口 紹介ビラ 4
II. 田辺市「ひきこもり」検討委員感想 5
III. 令和6年度 支援の実際	
1. 相談実績 10
2. 支援の報告	
(1) 家族会(ほっこり会) 14
(2) 青年自助会実績	
(3) 啓発活動・視察・問い合わせ	
(4) ひきこもり支援啓発パネルディスカッション 15
(5) 田辺市「ひきこもり」検討委員会 議題／活動 32
(6) 「ひきこもり」検討委員会 講義 33
IV. 参考資料	
1. ひきこもり家族の会 ほっこり会 紹介ビラ 50
2. 認定NPO法人 ハートツリー 紹介ビラ 51
3. NPO法人 かたつむりの会 紹介ビラ 56
4. 田辺市「ひきこもり」検討委員会 設置要綱／委員構成 57

I. 田辺市におけるひきこもり支援

自分の望む未来を描く、「自律」のための支援について

田辺市では、平成13年にひきこもり相談窓口を開設するとともに、保健、医療、福祉、教育、雇用などの関係者からなる田辺市「ひきこもり」検討委員会を組織し、相互の連携を図り、協力しながら課題の解決に取り組み、24年目を迎えました。

ひきこもり支援の取り組みを始めた当時に比べると、ひきこもり相談窓口は地域の中で身近になり、ひきこもり相談窓口「ひとのわ」以外にも南紀若者サポートステーションやひなたの森(居場所)等、相談できる機関が増え、社会資源も充実してきました。

また、令和6年度には、厚生労働省より「ひきこもり支援ハンドブック～寄り添うための羅針盤～」が出され、多様性を帯びるひきこもり支援に対して、新たな指針が示されました。

ハンドブックでは、①ひきこもり状態にある本人を「人として尊厳ある存在」と認識し背景等を理解する(人間観)、②本人や家族を取り巻く社会のあり方を問う(社会観)、③本人の意思を尊重する(支援観)、この3つの考え(価値)を共通基盤として、「自立」ではなく「自律」を目指すことが掲げられています。「自律」とは、「自身を肯定し、主体的な決定ができる状態」のことで、それは一人ひとり異なり、決まったものではありません。本人が望む未来を具体的に描けるよう、ともに考え寄り添うことが、今後のひきこもり支援に求められています。

また、表面化していない潜在的なニーズや長期化する中高年のひきこもりである8050問題にも対応すべく、より相談しやすい体制を整備すると共に、人と人との「つながり」を実感できる地域づくりを考えていくことが、これからの課題であると考えます。

今後も引き続き、ひきこもり検討委員の皆様と共に、ひきこもり相談窓口「ひとのわ」の周知や気軽に相談していただけるような体制づくりに努めながら、切れ目のない支援を構築していけるように、田辺市「ひきこもり」検討委員会を中心としたネットワークを活かし、中学校や高等学校等の教育機関や支援機関とも連携を図り、人の輪を大切にしながら支援できるように取り組んでいきたいと考えています。

ひきこもり支援の経過

平成 9 年 6 月	議員一般質問
平成 13 年 1 月	田辺市「ひきこもり」検討委員会を設置
平成 13 年 3 月	ひきこもり相談窓口の開設(保健師 1 名専任)
平成 13 年 4 月	田辺市「ひきこもり」検討小委員会の設置
平成 14 年 5 月	HAPPYが、ハートツリーハウス開所 社会的ひきこもり青年の居場所活動開始(国・県より補助金)
平成 14 年 6 月	田辺市ひきこもり家族会の設置
平成 16 年 1 月	田辺市ひきこもり青年自助グループの育成(月2回)
平成 16 年 3 月	ひきこもり相談窓口担当者1名増員 2名(保健師・相談員)体制に
平成 16 年 4 月	田辺市ひきこもり家族会が自主運営 ハートツリーハウスが「ひきこもり者社会参加支援センター」運営 事業補助金を受けて運営(県・市の補助金)
平成 17 年 4 月	ひきこもり青年自助会「知音CHI-IN」が開始(週 1 回)
平成 18 年 10 月	ハートツリーハウスがNPO法人認可 ハートツリーに名称変更
平成 20 年 8 月	NPO法人ハートツリーが南紀若者サポートステーション開設 (地域若者サポートステーション事業を厚生労働省より受託)
平成 21 年 4 月	ひきこもり青年自助会「知音CHI-IN」が休会
平成 21 年 4 月	NPO法人ハートツリーが県より若者サポートステーション事業を受託
平成 26 年 4 月	NPO法人ハートツリーが県より「若者総合相談窓口 With You 事業」を受託。若者サポートステーション With You 南紀として継続
平成 27 年 4 月	ひきこもり者社会参加支援センター ハートツリーが、「ひなたの森」に名称変更
平成 29 年 12 月	NPO法人ハートツリーが認定NPO法人に正式認定
平成 31 年 4 月	認定NPO法人ハートツリー ひなたの森の和歌山県「ひきこもり者社会参加支援センター事業」が国の「ひきこもりサポート事業」に移行
令和 2 年 4 月	南紀若者サポートステーションで「サポステ・プラス 就職氷河期世代の就労支援」がスタート
令和 2 年 10 月	ひきこもり相談窓口の愛称が「ひとのわ」に決定
令和 4 年 4 月	「ひきこもりサポート事業」が「ひきこもり支援ステーション事業」に変更

※ハートツリーハウスが「ひきこもり者社会参加支援センター」運営事業補助金を受けて運営を開始した年が以前の冊子では平成 17 年と記載していましたが、誤りであったため訂正しています。

田辺市ひきこもり支援ネットワーク

- ◆ 官民を超えたひきこもり支援対策の構築
- ◆ 事業報告・計画への意見
- ◆ 視察・講演会等への協力
- ◆ 対応が困難な事例の相談
- ◆ 委員の学習会

ひきこもり検討委員会 (年2回)

市担当課(商工・福祉)
 紀南児童相談所
 田辺市教育研究所
 田辺市養護教諭研究会
 和歌山県教育庁
 紀南教育事務所
 高等学校
 紀南こころの医療センター

ほっこり会(家族会)
 知音 CHI-IN(自助会)
 学識経験者
 精神科医師
 臨床心理士・公認心理師
 NPO法人かたつむりの会
 NPO法人共生舎
 (一社)白浜・田辺青年会議所

ひきこもり検討小委員会 (月1回)

市担当課(保健・福祉・教育)
 田辺保健所
 西牟婁圏域障害児・者相談センター
 にじのわ

やおき福祉会
 ふたば福祉会
 認定NPO法人ハートツリー
 ひなたの森
 若者サポートステーション
 With You 南紀
 学識経験者
 臨床心理士・公認心理師

※  公的機関  は民間機関

ひとのわ

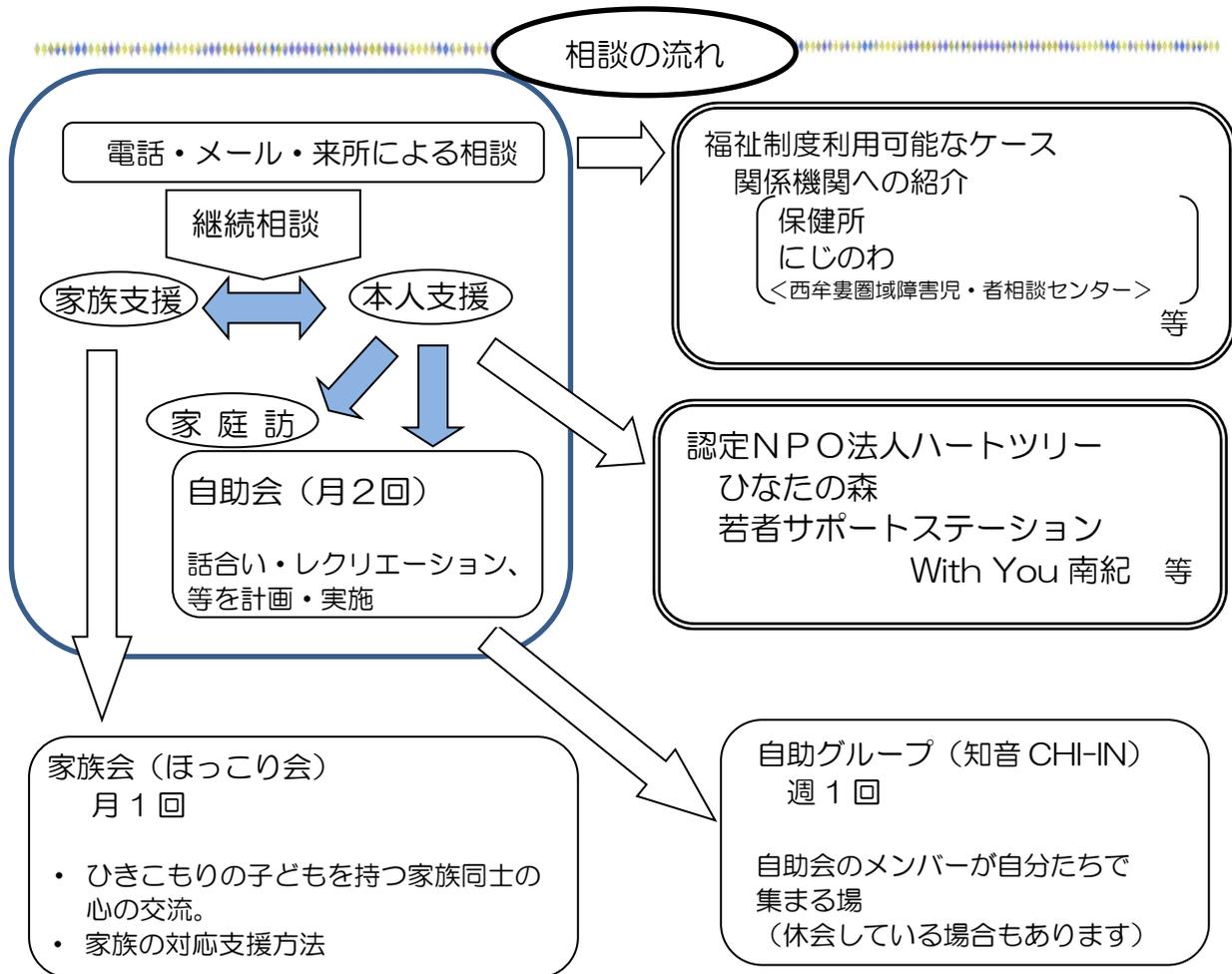
ご家族・ご本人さんだけで悩んでいませんか？

- 不登校のまま卒業・・・
- 中退後自宅中心の生活をしている・・・
- 進学、あるいは、就職したけれど途中で社会参加をしていない・・・



まずは、電話・メールをいただけませんか？

相談を定期的に続けていくうちに徐々に元気を取り戻していきます。
自助会、家族会（ほっこり会）があります。
会への参加は、相談窓口担当者がお会いした後紹介させていただきます。



問い合わせ先

田辺市健康増進課

TEL : 0739-26-4901 (平日8:30~17:15)

TEL : 0739-26-4933 (ひきこもり相談窓口専用)

E-Mail : shc@city.tanabe.lg.jp

HP : <https://www.city.tanabe.lg.jp/kenkou/hikikomori/>

※ 保健所にも「ひきこもり」相談窓口があります。

田辺保健所 TEL 0739-22-1200 (代表) (平日 9:00~17:45)



Ⅱ. 田辺市ひきこもり検討委員感想

『ひきこもり検討委員会を振り返って』

田辺市ひきこもり検討委員会 委員長
社会福祉法人 やおき福社会 西脇 潤

この2年間を振り返ってみて改めて思うことは、コロナ禍で積極的に開催できなかった啓発講演会などが対面で実施できるようになり良かったなということです。特にこの2年間講演会は、県内の支援事業所や当事者の方をお迎えして『現場の声』を市民の皆さんに届ける良い機会になったのではないかと考えています。

また、田辺・西牟婁の具体的な事例などに目を向けますと、少子高齢化がより進みひきこもりの支援層も年齢が上がってきているように感じます。多様な選択肢や多くの情報が飛び交うネット社会だからこそ、『信用できる情報』『具体的な支援の提供』をどう困っている方に伝えていけば良いのか、今後も検討を深めていきたいと思っています。

『ひきこもり検討委員会を振り返って』

田辺市ひきこもり検討委員会 副委員長
学識経験者 浅井 育子

検討委員になって15年が経ちました。誠に恐縮ながら今年度ももちまして委員を辞任させていただきます。長い間参加させていただいたこと、心から感謝しています。ありがとうございました。

私にとってひきこもり検討委員会は、多くの組織がそれぞれの視点から、生きづらさを抱える方々に対して「何か少しでもできることはないか」と模索する時間を共有できる、非常に心強く、また自らの仕事を振り返り襟を正す場でもありました。

AIの台頭により、「悩みごとはチャットGPTに相談する」という人も増えています。相手の迷惑にならないか、否定されるのでは、という不安なしに、気兼ねなく自分の辛さや弱みを話せ、的確なアドバイスをもらえる。その背景には「自分を出したいが傷つくのは怖い」「人とぶつかりたくない」「失敗したくない」思いがあるのではと感じます。

膨大な情報が飛び交うネット社会で、利便さと引き替えに我々が失っていったものがあるのかもしれませんが。コンプライアンス、ハラスメント、多様性など、言葉だけが一人歩きし、結果的に他者を攻撃するものになっていないだろうか。一方の面からだけ見ていないだろうか。本当にこれは本人にとって「よい」支援になっているのだろうか。常に考え続け、疑問を持ち続けていきたいです。そしてぶつかったり失敗したり反省したりしながらも、泥臭く人間臭い関係を大切にしていきたいと私は思っています。

オンライン会議でなく、あえて月1回同じ場所に集まる。そして皆でうんうん悩みながら考える。この時間そのものが、ひきこもり検討委員会の大きな意義だったと思います。

これからも一支援者として、微力ながらも私にできることを考え続けていきたいと思っていますし、何かの形でかかわらせていただければ嬉しいです。

『一人一人の「歩み」と共に』

田辺市ひきこもり検討委員会 副委員長

認定 NPO 法人 ハートツリー ひなたの森 南 芳樹

世の中の流行り事などに疎い僕ではありますが、最近メンバーから教えられ、やっと「Mrs.GREEN APPLE」にたどり着くことが出来ました(笑)

皆さん、もちろんご存じのように近年、若者だけに留まらずあらゆる年代の方に人気のグループですよ。

沢山の名曲はあるでしょうが、「僕のこと」という曲の歌詞のフレーズに

「僕らは知っている 奇跡は死んでいる 努力も孤独も 報われないことがある

だけどもね それでもね 今日まで歩いてきた 日々を人は呼ぶ それがね、軌跡だと」という部分があり、初めて聴いたときに、心が揺さぶられた気がしました。

今年度の啓発講演会で当事者の皆さんのお話を聞いた際にもお伝えしましたが、私たちが関わらせてもらっているメンバーの全員は理由や経過は別々であれ、本当に日々、闘い続けています。もちろん、すべてが上手くいく訳でも、簡単に解決するものではありませんが、彼らが闘い続けている「軌跡」は絶対に「真実」であると僕は考えます。

これからも、関わらせてもらう一人一人の歩みに寄り添うような支援者でありたいです。

『生きづらさを抱える若者たち』

学識経験者

談儀 善弘

「いじめの認知件数 XX 件」「不登校の児童生徒数 XX 人」「10代の若者の自死 XX 人」等々、生きづらさを抱える若者たちが増えているということを様々な指標で示されています。そしてこのことを受けて県は「和歌山県子ども計画(案)」を公表し、その対策に取り組もうとしています。我々もこのことを注視し、日頃の活動をより実効あるものにしていくべきであることは言うまでもありません。

ところで日頃関わっているケースでは、その課題の大きさや複雑さなどから行き詰まってしまっていることが多いのが現実です。そんなときに本委員会ではいろいろな学びや気づきを与えていただいていること、ネットワークによる助言や協力をいただいていることは私にとって心強く、ずいぶん助けられています。まだまだお世話になることが多いと思いますが、今後ともよろしく願います。

『新しい時代に向けて』

認定 NPO 法人 ハートツリー

若者サポートステーション With You 南紀

地本 裕子

最近、2005年9月1日発行の「こころの科学 123号 特別企画 ひきこもり」を読み返しています。その中で目良宣子先生の『「ひきこもり検討委員会」顛末記』には当時の田辺市の圧倒的なひきこもり支援へのエネルギーを感じます。昨夜、今年度最後の小委員会が開かれました。私は少し遅れて会議室に入りましたが、2001年(平成13年)1月に設置されたひきこもり検討委員会が、2025年現在も「ここに在る」と想うと、あらためてお集まりの皆様への畏敬の念に打たれました。

この一年を振り返ると、相談支援業務の中では、2020年以降の新型コロナウイルスの感

染が拡大していった時期に中学校、高校の生徒だった人たちが、「仕事」に関することで相談に来られることが徐々に増えてきたように思います。厚生労働省 令和7年度 地域若者サポートステーション事業では、「サポステ利用者に多く含まれるひきこもり経験者等の心理的なケアを必要とする者に係る医療機関や福祉機関といった地域の関係機関と連携した体制構築に取り組むほか、必要に応じて対人コミュニケーションや家族の不和、孤立などの当該利用者が抱える背景事情に踏み込んだ相談支援を行う者」として、「地域連携支援コーディネーター」が配置されることになりました。これまでの「サポステ事業」の中でも「高校中退者等アウトリーチプログラム」など、困難を生み出す状況や背景に合わせた様々な支援プログラムが追加、実施されてきました。新しい時代に向けた「背景事情に踏み込んだ支援」には、仕様書には書かれていない幾通りもの困難に対する方策を、創意工夫することが必要なのだと考えています。

『ひきこもり検討委員会で…感じていたこと』

社会福祉法人 ふたば福祉会 米川 徳昭

様々な分野で人手不足が叫ばれる中、現実にはひきこもりのことで相談を受けている人たちのことがたくさんの報告がなされる中で、社会は可能性のある未来ある人材をどれほど無駄にしているのかと思う時があります。

仕事柄、課題があり、今も苦しんでいる青年たちと出会うことがあります。一人一人は個性があり、ちょっとしたユーモアがあり、少し臆病で、時には大胆で、人の目が嫌で、でも、寂しくて、ゲームが得意で、その世界の中では雄弁で、優秀で。

そんな彼らが安心して暮らせる場所をどうすれば作れるのか。

否、彼ら自身が作るからこそが本物かも知れない。

『1年を振り返って』

西牟婁圏域障害児・者相談センター にじのわ 中田 勲

今年度、検討委員を務めさせていただきましたが、あっという間に1年が過ぎました。障害をお持ちで生き辛さを抱えている方々の相談業務に携わっており、身内の方がひきこもりでといった相談も時にはあります。私たちが関わる事で状況が動き出すことは難しいですが、いつか動き出す時のために繋がった縁を切らさないよう信頼関係の構築に努めています。小委員会の報告の中で様々な職種の方の意見について勉強させていただきました。講演会では当事者と支援者の対談と講演会終了後の支援機関や当事者の仲間との振り返りや意見交換会も勉強になりました。これからの業務に生かしていきたいと思っています。皆さまお疲れさまでした。ありがとうございました。

『令和6年度ひきこもり検討委員会に参加して』

西牟婁圏域障害児・者相談センター にじのわ 松岡 大輔

今年度、田辺市ひきこもり検討委員会に参加させていただきました。

私自身「にじのわ」1年目ということで、不勉強がゆえに、「にじのわ」の取り組み・支援の現状等をうまく共有出来なかつたり、的外れなことを言ってしまったのではないかと……等、反省する部分も多々ありました。ですが、関係機関の皆様の取り組みを共有いただいたり、

ひきこもり支援に関する連携先を知ることができたり、啓発講演会で当事者の方の生の声をお聞き出来たりと、委員会に参加させていただいたことで得るものもたくさんあったと感じています。ひきこもりの方の支援は、たくさんのひとが、支援の輪を広げていって、少しずつ進展していくものだと思いますので、その支援の輪の一員として、微力ながら取り組んでいければと思います。

『2年間を振り返って』

田辺保健所 森田 早紀

今回、初めてひきこもり検討委員会の委員として2年間務めさせていただきました。田辺市の皆様の取り組み、地域のひきこもり支援者の皆様との意見交換を通じ、ひきこもり者の援助及び施策について大変勉強させていただきました。

毎年開催されるひきこもり支援啓発講演会においては、当事者の方の生の声であったり、それに関する支援者の方のご意見を聴かせていただき、居場所の在り方や、ひきこもりに対する考え方など、さまざまな視点からひきこもり支援を考える機会をいただきました。ひきこもりは生きづらさの課題であり、居場所はその生きづらさに対し安心して向き合える場や機会を提供されていることを知りました。自分ができる支援の立場からその生きづらさに寄り添えることができればよいなと思っています。

2年間大変お世話になりありがとうございました。今後とも市町村・関係機関との連携がさらに円滑にできるよう精進してまいりますのでどうぞよろしく願いいたします。

『ひきこもり検討委員会を振り返って』

田辺市教育委員会 学校教育課 藤田 祥史

学校教育課の担当として1年間、お世話になりました。

1年間を通して、各委員の方々からそれぞれのお立場としてのお話を聞かせていただき、大変参考になりました。委員会の中で特に印象に残っていることが2つありました。1つ目は田辺市ひきこもり支援啓発講演会です。居場所の方と当事者の方がどのように繋がったのか、どのように一歩を踏み出したのか、生の声を聴くことができ、当事者の想いや居場所の大切さを知ることができました。

2つ目は第2回「ひきこもり」検討委員会での峯上氏のご講演です。不登校やひきこもりの方、障がいのある方やそのご家庭に対して訪問看護ステーション Hull が行っているアウトリーチ(家庭訪問)の取組や Gifted Creative が行っているテレワーク就労などの就労・社会復帰支援の取組を聞かせていただきました。生きづらさを感じている方、社会とつながれていない方へのアプローチには、メンタルヘルスの専門家の介入が必要不可欠であることや、新しい働き方であるテレワークが就労や社会復帰への第一歩となることを学ばせていただきました。

委員会で学ばせていただいたことを生かし、学校教育の立場からどのような支援を行うことができるか引き続き検討していきたいと思っています。

『1年間を振り返って』

田辺市教育委員会 生涯学習課 橘 亜門

今年度より生涯学習課の担当として、ひきこもり検討委員会委員として参加させていただきました。小委員会での協議内容は専門的で、飛び交う用語や支援の状況、現状に驚かされ、只々勉強の1年でした。

また、講演会では、当事者の生の声を聞くことで、当事者心理を学べただけでなく、居場所が果たす役割の偉大さを実感することができました。

そうした中で、生涯学習課として直接的に支援することは難しいかもしれませんが、この社会問題を地域全体で学び、考える機会を作っていくことで少しでも支援につながるのではと感じています。

今後におきましても、生涯学習の立場から何ができるかを考えていきたいと思えます。

1年間、ありがとうございました。

『ひきこもり委員会感想』

やすらぎ対策課 障害福祉室 永井 賢太

早いもので、今年度末でトータル5年間委員を務めさせて頂いた事になります。普段は田辺市障害福祉室で、障害福祉サービスの支給決定業務や、成年後見制度の市長申立、障害者虐待事案の対応、またケース対応等も行っております。普段の業務の中で、障害が原因でひきこもりとなっている事案もある為、ひきこもり支援については慎重に丁寧に関わる必要性を日々感じています。講演会については、スタッフとして関わる事で、自分も興味がある講師先生方の話が聞けて、すごく勉強になり自身の業務にも活かせる事があります。引き続き様々な場面で関わらせて頂く事があるかと思えますので、今後とも何卒よろしくお願い致します。

『ひきこもり検討委員会に参加させていただいて』

福祉課 山崎 孝江

昨年度よりひきこもり検討委員会の委員として務めさせていただきました。はじめはひきこもり支援の現状について全くと言っていいほど無知な状態でしたが、委員会や啓発講演会等を通して、様々な学びを得ることができたと実感しております。

私たち支援者は一人では何もできませんが、様々な横のつながりが支援の輪を広げることができると思います。こうして委員会に参加させていただいたことで、新たなつながりを持たせていただくことができたこと、本当に感謝しております。

最後になりますが、今後も様々な機会を通じて、「ひきこもり」の支援の現状について、広く啓発を行い、他人事ではなく、自分ごととして支えあえる社会となれるよう願っています。

2年間、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

Ⅲ－1. 相談実績

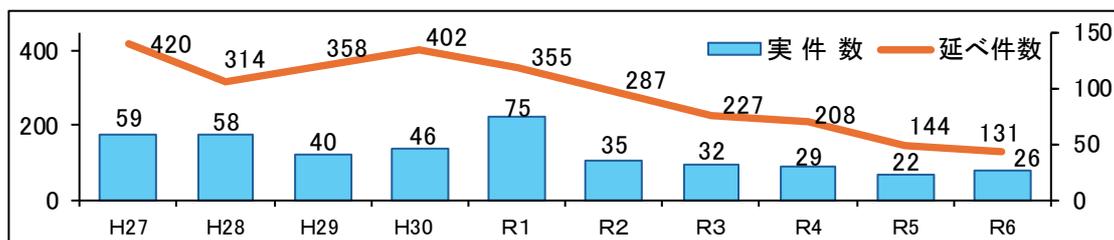
1. 相談実績（令和6年度）

相談窓口開設以降、令和7年3月末までに 723 家族、752 件の相談がありました。
（内、令和6年度新規相談は、11 家族、11 件）

(1) 年度別相談件数

平成 27 年度から令和6年度の 10 年間の相談実件数、延べ件数の推移を示しています。

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
実件数	59	58	40	46	75	35	32	29	22	26
延べ件数	420	314	358	402	355	287	227	208	144	131



(2) 令和6年4月～令和7年3月までの状況

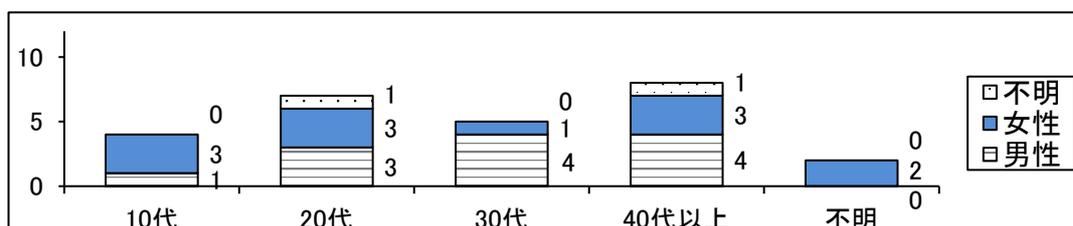
① 月別相談延べ件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期合計			
電話	2	2	2	0	2	2	10			
来所	9	10	6	8	6	9	48			
メール	0	0	0	0	0	0	0			
訪問	4	1	2	0	1	1	9			
合計	15	13	10	8	9	12	67			
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期合計	総合計	%	
電話	0	0	0	0	3	2	5	15	11.5	
来所	10	9	6	11	5	8	49	97	74.0	
メール	1	0	0	0	0	0	1	1	0.8	
訪問	2	2	1	2	1	1	9	18	13.7	
合計	13	11	7	13	9	11	64	131		

② 年代別男女別件数(26件中)

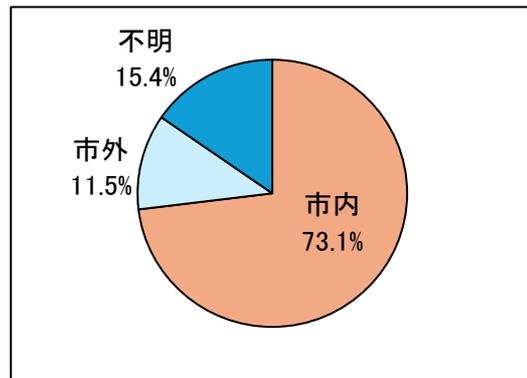
	10代	20代	30代	40代以上	不明	合計	%
男性	1	3	4	4	0	12	46.2
女性	3	3	1	3	2	12	46.2
不明	0	1	0	1	0	2	7.7
合計	4	7	5	8	2	26	
%	15.4	26.9	19.2	30.8	7.7		

※ 端数処理のために、総計が100%にならない。



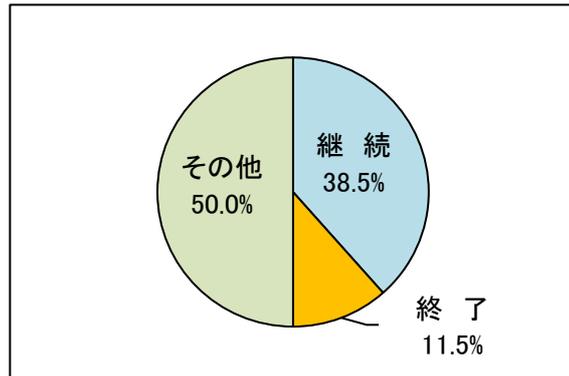
③ 居住別(26件中)

	人	%
市内	19	73.1
市外	3	11.5
不明	4	15.4
合計	26	



④ 相談結果(26件中)

	人	%
継続	10	38.5
終了	3	11.5
その他	13	50.0
合計	26	



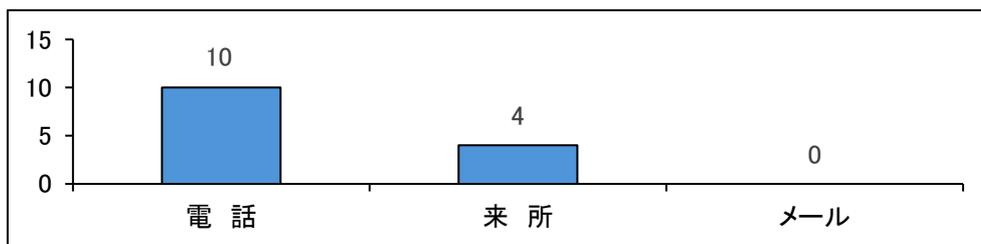
【内訳】

- 終了
 - 紹介…ひなたの森(1)、保健所(1)
 - その他…支援機関に既に繋がっているため(1)
- その他
 - 3ヶ月未満の継続…家族からの相談(2)、関係者からの相談(1)
 - 1回のみ相談…本人からの相談(2)、家族から(7)、関係者から(1)

⑤ 初回相談形態(14件中)

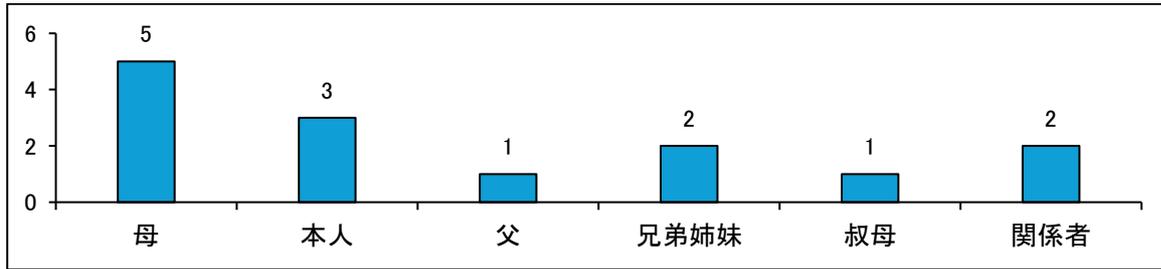
	人	%
電話	10	71.4
来所	4	28.6
メール	0	0.0
合計	14	

【補足】令和5年度中に相談実績のなかった者については、初回相談として計上



⑥ 初回相談者(14件中)

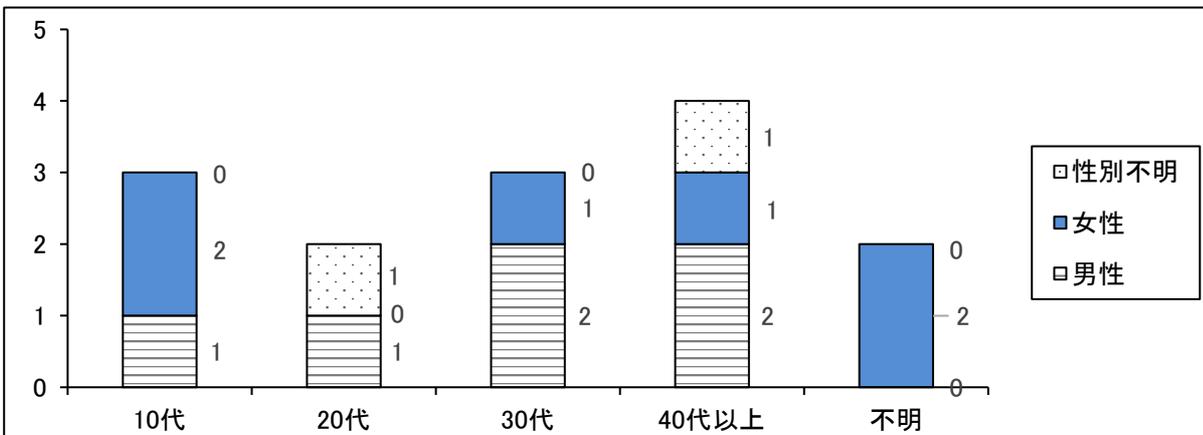
	母	本人	父	兄弟姉妹	叔母	関係者	合計
初回	5	3	1	2	1	2	14



⑦ 初回年代別男女別件数(14件中)

	10代	20代	30代	40代以上	不明	合計	%
男性	1	1	2	2	0	6	42.9
女性	2	0	1	1	2	6	42.9
不明	0	1	0	1	0	2	14.3
合計	3	2	3	4	2	14	
%	21.4	14.3	21.4	28.6	14.3		

※ 端数処理のために、総計が100%にならない。



(3) 継続相談について

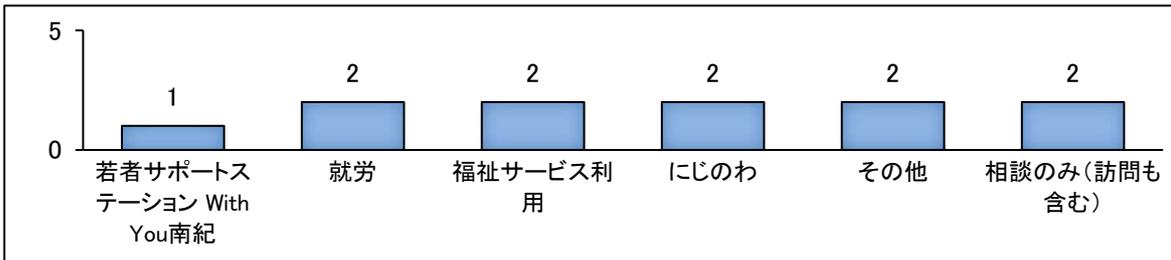
① 相談状況(重複あり)

若者サポートステーション With You 南紀	1
就 労	2
福 祉 サ ー ビ ス 利 用	2
に じ の わ	2
そ の 他	2
相 談 の み (訪 問 も 含 む) ※	2

※ひきこもり相談窓口の相談のみで、自助会や他の支援を利用していない方

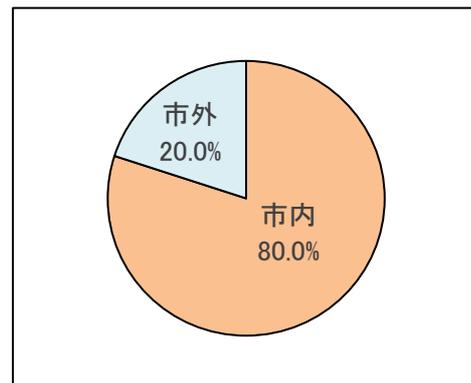
■医療機関を定期受診している方は、5件

■【その他 内訳】 ポラリス(1)、TETAU事業協同組合(1)



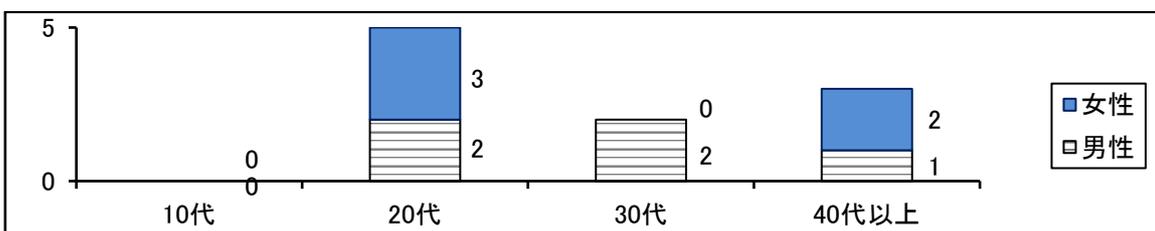
② 継続居住別(10件中)

	人	%
市 内	8	80.0
市 外	2	20.0
合 計	10	



③ 継続年代別男女別件数(10件中)

	10代	20代	30代	40代以上	合計	%
男 性	0	2	2	1	5	50.0
女 性	0	3	0	2	5	50.0
合 計	0	5	2	3	10	
%	0.0	50.0	20.0	30.0		



Ⅲ－2. 支援の報告

(1) 家族会(原則月1回)

ほっこり会(紀南地方ひきこもり家族の会)実績(平成16年4月より自主運営)
※ 参加者なし

(2) 青年自助会実績(原則月2回)

※ 参加者なし

(3) 啓発活動・視察・問い合わせ

○啓発活動

■ひきこもり支援啓発講演会案内チラシ配布
市内中学3年生、紀南六高校3年生、関係機関他

■相談機関紹介チラシ配布
市内中学3年生、紀南六高校3年生

○視察・・・なし

○問い合わせ・・・なし

(4) ひきこもり支援啓発パネルディスカッション

主 催 : 田辺市「ひきこもり」検討委員会/田辺市
共 催 : 若者サポートステーション With You 南紀
後 援 : 認定 NPO 法人ハートツリー/田辺市教育委員会
田辺市社会福祉協議会/田辺保健所/(一社)白浜・田辺青年会議所
紀伊民報社/(株)和歌山放送/FM TANABE
日 時 : 令和6年9月21日(土) 13:30~15:30(開場 13:00)
場 所 : 和歌山県立情報交流センターBig・U
演 題 : 「居場所との出逢い」
~経験者のホンネ~



パネリスト : NPO法人 ヴィダ・リブレ
日下 陽太 氏
鈴木 氏(仮名)
社会福祉法人 一麦会 麦の郷 ハートフルハウス創
野中 康寛 氏
宮坂 氏
認定NPO法人 ハートツリー ひなたの森
南 芳樹 氏
平 氏
コーディネーター : 田辺市「ひきこもり」検討委員会 委員長 西脇 潤 氏
参加者 : 77名(ひきこもり検討委員・関係者・事務局含む)

【講演内容】

コーディネーター 西脇氏(以下、西脇): 皆さんこんにちは。本日のパネルディスカッションの進行をさせていただきます。検討委員会、西脇と申します。普段は、やおき福祉会という法人で、心の病気や障害をお持ちの方の支援に従事させていただいております。

本日は、昨年度に引き続き、県下3ヶ所の居場所よりゲストを迎え、ひきこもり経験者の方に、居場所の魅力や今だからといえる当事者としての本音について、いろいろと伺っていきたくと考えています。

パネルディスカッションに入る前に私の方から、ひきこもり問題の簡単な説明と、タイムスケジュールについてお話をさせていただきたいと思っております。

皆さんご存じかと思いますが、ひきこもりとは、仕事にも学校にも行っていないくて、家族以外の方とほとんどコミュニケーションをしない状態が6ヶ月以上続いている状態、これをひきこもりといいます。

昨年度の国の調査では、15歳から65歳までの全人口の2%相当、146万人の方がこの状態に該当しているというふうに言われております。この比率は全国どこの都道府県もあまり変わらないそうです。これを和歌山県に当てはめると、推計ですが15歳から65歳まで、9800の方がひきこもりの状態におられるということになります。

身近なところですと、みなべ町の人口が12000人程度、上富田町の人口が2万人強ですから、みなべ町の人口よりも少し少ない、上富田町の住民の方の半数の方が、そういうふうな状態で県内におられるということが推定されます。

何が言いたいかって言いますと、あまり馴染みのない問題かもしれないですが、意外と身近な問題なんじゃないかっていうことを、数字上で知っていただけたらと思い、ご紹介させていただきました。

では、本日の見どころとか聞きどころは、そういった数字じゃないところの本音ということで、その辺についてお話を伺っていただけるといいなというふうに考えています。前半ですけれども、皆さんに居場所を知ったきっかけ、利用に至った理由などについて聞かせていただきたいなと思っております。

休憩を挟みまして、後半では、居場所を利用してよかったこと、ご自身に起きた変化、今後の展望について聞かせてもらいたいなと思っております。

最後に質疑応答の時間を設けておりますので、会場の皆様、途中で聞きたいなということがありましたら、メモしていただけたらと思います。

それではまず、今回お集まりいただいた居場所の皆さんに事業所紹介をしていただきます。お手元のパンフレットを参考に、紹介を聞いていただけたらと思います。それではまず、ヴィダ・リブレの日下さんからお願いいたします。

ヴィダ・リブレ 日下氏(以下、日下):NPO法人ヴィダ・リブレと申します。

よろしく申し上げます。僕自身は、ピアサポーターって言ってひきこもりの元当事者のスタッフです。

うちのNPO法人は美浜の方でやっています、日高圏域の6市町村と有田圏域の2市町を対応させてもらっています。圏域外は料金がかかりますが、利用できます。

うちの理事長の宮西は精神科医で、長年ひきこもりの研究をしていて、日高圏域に居場所がなかったのでつくろうかということで始まりました。

居場所では、みんなで話したり、楽しい遊びとか趣味とか、あとは自分のしんどい話もしたりします。あとは、ボードゲームとか、テレビゲームとかを活用した交流という感じで一緒に遊んで、遊びたくないよって方は、よかったですら横で見といてねって感じでやってもらっています。

専門家による相談では、今、精神科医が1名と、心理士さんとかその他の専門資格とか持っている方が7名程います、その方々が相談に乗ったりしてくれます。

あと、SSP、生活スキルトレーニングなんですけど、料理イベントとか、季節のイベントとか、シミュレーションみたいなことをやってどういうふうに話したらよかったのかなっていうのを考えたりする練習とかをやっています。

うちで、自己決定の尊重と自由、それぞれの個性の尊重の3つを大切にしています。

あと、相談者の高齢化っていうのがちょっと最近あって、40代50代の方が増えてきているのでやっぱり、お父さんお母さんが亡くなったりする問題がちょっとずつ出てきていますので、やっぱり親御さんが心配して、自分がもう長くないからどうしようかっていう心配とか出てきているので、ちょっと相談しに行ける場所っていうのを知ってもらったかなと思います。生活保護とか、障害年金とかに繋がる人が多いです。

あとはやっぱり不登校の子が最近本当に多くて、一緒に勉強したり、ちょっと遊んだりとかやっています。以上です。

西脇:ありがとうございます。一日の流れなどは手元のパンフレットにありますので、そちらを見ていただけたらと思います。

それでは続きまして、ハートフルハウスの野中さん、よろしく願いいたします。

ハートフルハウス創 野中氏(以下、野中):ハートフルハウス創の野中です。ハートフルハウス創は、紀の川市・岩出市から委託を受けひきこもりステーション事業というかたちで行っています。

もちろん相談、訪問、同行支援、例えば同行支援では、「病院に行きたい」、「髪の毛きりに行きたい」などというときに一緒に行く支援。居場所、ゆっくりする場所とその居場所の中でいろんな活動を一緒に作っていくってことをしている。それともう1つは福祉サービス就労継続支援 B 型作業所になりますが「創カフェ」です。創カフェについては、あとで少しだ

け映像も見てもらいます。創カフェが少し有名になってきているので「創＝カフェで働いてるんや」みたいな、そんなイメージを受けるかもしれませんが、働く場所自体が居場所になれば嬉しいなと思いつつながら、働く居場所というふうな感じのイメージでカフェをやっています。

最初からカフェがあったわけではなく最初は、相談と居場所と訪問とを中心に行っていました。ある時、居場所の中で映画見に行こうって話になって、話をしているときは10人ぐらいで盛り上がるんですが、実際に映画を見に行く日になったら、来る人が1人、2人に減っちゃうんです。私たちスタッフは、「さすがに人がたくさんいるイオンに行くのはちょっとハードル高いかな」みたいなことを勝手に思っていたのですが、あるとき映画に行かなかったメンバーに「何で映画行かなかったの？」って聞いたら、その時に言っていたのが衝撃で、④「ひきこもっている僕たちは息をしているだけでも迷惑をかけている」⑤「誰に迷惑かけてるんよ」⑥「家族に迷惑をかけている。家族だけじゃなくて社会にも迷惑をかけている」って言いました。⑦「迷惑をかけっ放しの自分っていう存在が、家族に創で遊びに行くんで3000円頂戴、5000円頂戴ってお小遣いをくださいっていうお願いは、口が裂けてもできへんね」って言われました。それだったら、せめて自分たちが行きたいところに行け、買いたいものが買える、映画見に行く、好きなことができるお金を調達しようということで、カフェを始めました。(カフェの動画視聴)以上です。

西脇: はい。ありがとうございました。

それでは続きまして、ひなたの森の南さんをお願いします。

ひなたの森 南氏(以下、南): ひなたの森の支援員の南と申します。どうぞよろしく申し上げます。ひなたの森は、ヴィダ・リブレさんや創さんと同じく、ひきこもり支援ステーション事業という委託事業を受けて運営をさせてもらっております。支援対象地域は、田辺市を含む西牟婁地域で、支援をさせてもらっております。

大きな支援の柱としては3つ、相談支援事業と訪問支援事業、それともう一つが居場所の活動、この3つが大きな支援の柱かなと思っております。

元々ハートツリーは不登校の教育相談から始まり、学齢期を過ぎた青年の居場所、誰がどのように支援するのかという、地域の課題を解決するために活動を始め、青年の居場所、ひきこもり青年の居場所に発展をしていったという経過があります。

居場所のモットーは「いつ来てもいいし、いつ帰ってもいいよ」「何をしてもいいし、何もなくてもいい」。そのまんまの自分で居てもいいよという安心感を持ってもらえるような場所を目標に、日々活動しております。

もちろん自分らのところでも幾つかのイベントもしているんですが、去年のあたりから、同じ思いを持っている支援団体さんやメンバーさんとの交流を図りたいっていうようなところもあったので、ヴィダ・リブレさんや創さん、その他、県内いくつもひきこもり支援をやっている団体がありますので、その皆さんとコラボ企画という形で、去年は運動会をしました。

今年も第2回運動会を開催予定ですが、その前にちょっとプレでやろうぜということで、8月に麻雀大会をやって総勢29名が参加して、予選から決勝までやって、決勝なんでYouTube配信して、それをメンバーさんが解説までするという、とんでもない企画をやった。もちろん健全な麻雀ですので、お金はかけておりません。

そんな、他団体さんとの交流なんかこれから増やしていけたらなというふうに思いながら活動しています。以上です。

西脇: はい。ありがとうございました。設立の経過であったり、現在の活動内容であったり、三者三様の様子が伺えたかと思えます。

それではここからは、経験者の皆さんからお話を伺っていきいたいと思います。

ひきこもっておられると、なかなか情報をつかむことって難しいかと思うんですが、そうし

た中で、どういったきっかけで居場所を利用することになったのか、3人に聞いてみたいと思います。そしたらまず鈴木さんからお答えしていただいでよろしいですか。

<ヴィダ・リブレ> 鈴木氏(以下、鈴木):鈴木と申します。よろしくお願ひいたします。

まず、ひきこもったきっかけなんですけども、中学ぐらいから視覚と聴覚が過敏になってきたっていうのがありまして、そこが自分の持っている発達障害からの影響だと思うんですけど、当時はそういうことが分からなくて、しんどさがあったんですけども、なかなかSOSを出せなかった、というのがありました。誰が悪いというわけではないんですけども、それを何かなかなか伝えられなかった、そういうしんどさが積み上がって、大学生のときにひきこもりました。

そのときは、まだ居場所には繋がってなくて、病院、3つぐらい転々としたんですけども、最後に診てもらった病院で、今のヴィダ・リブレの理事長の宮西先生に繋がりにまして、そこから居場所に繋がったっていうような感じになります。以上です。

西脇:はい。ありがとうございます。

そしたら、ハートフルハウスの宮坂さんの場合はどうですか。

<ハートフルハウス創> 宮坂氏(以下、宮坂):はい。宮坂と申します。よろしくお願ひします。

僕の場合は、普通に大学を出て、卒業と同時に就職して働いていたんですけど、いわゆるブラック企業的なところで、10年近く働いていたんですけども、結局、限界がきて体調崩して辞めることになりました。そこからは、次の仕事なり、次どうしたらいいかっていうのをズルズルやっていて、そのまま「ひきこもる」という形になりました。

家に籠ってインターネットぐらいしかすることがなくて、そこでたまたま創カフェのことを知って、よくよく見てみるとなんかひきこもりの相談をやっているっていうことに気が付いて。その時は、この先どうしたらいいか全然分からなくなっていたので、とりあえず相談してみようかなっていうぐらいの気持ちで相談したのがきっかけで、今も利用させてもらっています。

西脇:はい。ありがとうございます。では続いて、ひなたの森の平さん、お願ひします。

<ひなたの森> 平氏(以下、平):はい。平と申します。よろしくお願ひします。

初めにひきこもりのきっかけなんですけど、元々の小学校の頃から、起立性調整障害、聞きなじみがあるかどうか分からないんですけど、っていう病気になって、中学校1年生の夏ごろに悪化しました。病状でいうと、朝がまず起きづらいついていうのと、起きて立ち上がった瞬間に眩暈が起こって、そのまま登校が難しくなりましたので、そこからどんどん学校に行くことが少なくなって、不登校になっていった形になります。インターネットとかで、はじめは友達とも関わりがあったんですけど、それも、中学校時代なので、みんな同級生の忙しさっていう中で、交友関係が減ってひきこもっていきました。

母親がどこから聞いたか知らないんですけど、母親の紹介で、とりあえず自分もこの状況を脱したいと思っていたので、ひなたの森に行くことになったのがきっかけです。

西脇:はい、ありがとうございます。三者三様、それぞれきっかけが違なって思いました。医療機関からの紹介だったり、インターネットの閲覧から試してみようと思ったり、またご家族紹介だったり。居場所を知るって、割と検索したりとか、田辺市の場合ですとホームページとかあるんですね。

では、実際使ってみようというふうに決心した、日常的に利用することを選んだきっかけとか、それを選ぶような気持ちを後押しした当時の状況みたいなものについて、それぞれ可能な範囲で結構なので、教えていただけたらと思います。

鈴木さんからお願いしていいですか。

鈴木: はい。居場所なんですけど、今はヴィダ・リブレに来ているんですけど、僕の主治医だった精神科医の宮西先生が病院にいらっしゃったときに、病院の中で「ショートケア」という形で居場所とは違うんですけども、近いような形で、みんなで話したりゲームしたり、なかなか珍しいですが、そういうショートケアをやっていて、そこを最初利用したんです。その時のお話をさせていただくと、最初はすごく嫌でした。行くのが嫌で、行かないと駄目だということはお分かっているんですけど、薬が欲しいがために行くというような感じでした。最初は何もせず1時間座っているだけで、心臓バクバクみたいな感じだったんですけども、ピアサポーターの方とかにしゃべりかけられていくうちにだんだん面白くなってきて、気づいたら麻雀したり、しゃべったりとかしていました。

いろんな関係者が存在して、前向きな気持ちになっていたんですけど、最初は病院を受診するために参加せなあかんから、嫌やなあって思いながら行っていました。

そこに行けて言ったのは親で、親がすごい心配して行かそうとしてくださっていたんですけど、自分はすごい後ろ向きな気持ちでした。それがきっかけになります。以上です。

西脇: はい。ありがとうございます。気付かないうちに楽しめているっていうのはすごいですね、支援者側のテクニックかもしれませんけど。はい。

では続いて宮坂さん、どうですかね。

宮坂: 僕は、自分から創に電話かけて相談に乗ってもらってからなんですけど、そこで最初に相談してもらった職員の方とかに、居場所ってどんなところとか、カフェをやっているけど、どんな感じでやっているかとか聞いて。その時は先に進みたい気持ちはあるんですけど、別にしたい仕事があるわけでもなく、どうしたらいいのかわからなくなっていたので、そういった事をいろいろ相談して、元々カフェを巡ったりすることが好きだったので、カフェで働けるし、居場所で遊んだりできそうだし、ちょっと楽しそうやなっていうのを思って通い始めたのがきっかけですね。

実際、行き始めると居心地が良くて、自宅以外で外に出る理由ができたし、B型作業所ですけどカフェで働くこともできて、ひきこもっていた時より少し進めるのかなと思いながら通い始めたのがきっかけです。

西脇: はい。ありがとうございます。やっぱりカフェのイメージ大事ですね、野中さん。明るくちょっとおしゃれで、ここやたらっていうのが1つきっかけになったのかなと思います。

では、続いて平さんお願いしていいですか。

平: はい。不登校になって、普通の人生のルールとは違うという劣等感があって、それをどうにかしたいけど、どうすることもできなくて、何も分からなかったんです。

その中で紹介してくれて、でも、そこもどういう所かわからなくて、とりあえず行ってみようっていうのが強かったです。本当に何も分からないけど、ただ、行動に移してみようっていうのが通い始めたきっかけです。

西脇: はい、ありがとうございます。こうやってきっかけを聞いてみると、やっぱり選択肢っていうのが1つのキーワードになってくるのかなと思うんです。

いろんな選択肢を選べるんだらうけど、やっぱり望んだわけではないんだけどもひきこもりの状態になって、どこに繋がれば、何がしてもらえるっていうのが分からない中で、とりあえず動いてみる、信じてみる。実際、ここにおられる3人の方は動いてうまくいったケース。もちろんうまくいかないケースもあるんでしょうけど、やっぱり何かしらのきっかけを持って動いたことで、変わってきているのかなっていうふうに、思いました。

その中で、後押しとかっていうふうなところで言うと、家族の存在って、利用し始めるとき、

自分にとってどんな感じでしたか。今度は平さんから聞いていいですか。

平：そうですね。母親がすごく悩んでいる姿を見ていたので、それに応えたいという気持ちがあって行動に移しました。

西脇：やっぱりご家族の関係がこれまでもよかったんで、やっぱりそういう家族さんの心配している様子が自分の背中を押してくれたっていう面が、あったのかなっていうふうになんかちょっと聞かせてもらいながら、感じました。

宮坂さんはその当時、家族に対する思いとか、なんかそういったところで何かありますか。

宮坂：僕のところは、今は、大分状況を理解してもらったり、支えてもらったりしているんですけど、やっぱり、ひきこもっている状態っていうのは理解されなくて。ひきこもっている時もそうでしたけど、自分自身はそこで焦りも感じていましたし、いろいろ悩んだりしていたんですけど、家族やから、余計に言えないこととかもあつたりして、なかなかどうしていいのかっていうのが難しかったです。

親もどうしてあげたらいいかわからない。僕自身もわからない。ただ、見守ってくれただけって感じだったんですけど。僕自身はすごく一人で焦っていて、どうしたらいいのかわからなくてずっと考えていて、「創」にたまたま相談に行って、こういうところがあると思うっていう話をしたら、家に居てくらいやったらっていうので、いろいろ支えてもらいながら今通っています。

西脇：ありがとうございます。今の話、すごくリアリティがあると思います。

家族にとって、子どもがなぜひきこもっちゃうのか分からないし、この状況に対してこんなはずじゃなかった、もしくは、そろそろ良くなるはずだみたいなのがやっぱりあると思うんですよ。そんな中で、何を頼ればいいのか何をすればいいのか何を行動すればいいのか。その居場所に繋がるまで、繋がって安定した利用ができるまでっていうのはすごく大事な時期のような気がするんです。

そんな中で、お互い大丈夫かな、大丈夫かなって思いながら試して、ここなら安心して通えるとか、やっと家じゃないどこかに繋がってくれたみたいなものが、やっぱり各場所の出会いであったり、スタートの場所であるんじゃないかなって思って、こういう話は当事者が当時を振り返って語ることでしか聞けない話かなって感じました。

鈴木さんの場合はどうでしたか。

鈴木：はい。最初の頃っていうのは、僕から見た感じですけども、すごい仲も悪かったし、口もきけへんし、みたいな感じやって。僕が安定してきた時に親子関係も安定してくるんですけど、最初は本当に陰悪な感じやったんで。でも、そんな中でも一応、親は心配してくれて、病院行きなさいっていうことで行って、利用していくってことに繋がるんですけど、そのときは、あまり僕は親のためとか考えてなくて。すごい仲が悪かったっていうのもあるんですけど、どちらかというと焦りっていうのもありました。1回、病院に入院したことがあって、その時しんどくて辛かったんで、またそういう状態戻りたくないっていう焦りの気持ちが強くて、何とか自分で行こうっていう思いになりましたね。

西脇：病院行くぐらいやったら居場所に行こう、そんな感じですか。

鈴木：そうですねもう後戻りはしたくないなっていう気持ちです。

西脇：はい。ありがとうございました。やっぱりそういうふうな一種の覚悟ですよ。

自分にとって、やっぱりここで何か行動しなきゃ、変わっていかないというふうな。

こういった部分、まだ掘り下げていきたいと思うんですけど、一旦ここで前半の休憩を入

りたいなと思います。

西脇: はいそれではお時間になりましたので、後半の方を始めさせていただきたいと思います。

それでは、これからは居場所を利用し始めてからの皆さんの経験を中心に、お話をしていただけたらなというふうに思います。

リアルなところで、成功体験だけではなくてですね、いろんな葛藤ですとか、困ったことなんかも、この機会に可能な範囲で聞かせていただけたらなというふうに考えております。じゃあまず良かったこと、居場所を利用して自分にとってはこれがすごく良かったっていうふうな部分について、それぞれ聞かせていただきたいなと思います。

それでは鈴木さんの方からお願いしてよろしいですか。

鈴木: はい。実家は大阪なんですけども、ヴィダ・リブレのある御坊市の会社に就職することになりまして、その時は大分復活していたんですけど、とりあえず、正式に就労する前に体験就労で様子見よかっていうことで、1週間実習みたいなことをさせていただいたんです。その時に、まだ正式に就労するわけでもないのにホテル借りるのもお金いるし、ヴィダ・リブレに寝泊まりさせてもらいました。

先生とかピアサポーターの皆とかも、大丈夫かみたいな感じで心配してくれたりとか、結局就職したんですけど、そのあと仕事の合間に「しんどいわ」とか言って寝転がったり、休んだり、ご飯食べに来たりとかしてすごい癒されました。そういうところでよかったなと思います。

西脇: はい。素の自分でいられるってすごく大事ですよ。

では、続いてハートフルハウス、宮崎さんお願いいたします。

宮崎: 僕がよかったことは、まず自宅以外の外出できる場所ができたところです。

あとは、そこへ行けば自分と同じような悩みを持っている仲間がいること。何か困ったことがあったとき、親以外に相談したり、頼れるところがあるっていうところ。

あとは、「創」の場合は B 型作業所でカフェをやっているの、そこで少なくとも稼げるっていうこと。あとは、単純に居場所っていうそのままで居心地が良い場所ができたっていうことです。

西脇: はい、ありがとうございます。

生活のリズムであったり収入であったり、やっぱり自分にとっての安心するのは大きいかなって思います。では続いて平さん、お願いします。

平: はい、交友関係が増えたことが一番よかったのかなと思います。今も来てくれている方がたくさんいるので。学生時代に関わっていた人とはもう関わりがないので、居場所に来て喋る人とか遊んだり、ご飯行ったりっていう人がかなり増えたので、それがよかったなと思います。

あとは就労支援で、自分のお小遣いを稼ぐっていうのが、自分のためにも良かったかなと思います。以上です。

西脇: ありがとうございます。

心の病気で支援が必要な方なんかも、長期療養多いんですけど、同世代との比較とか、別に誰かに強要されるわけじゃないんだけど自分の中でとか、やっぱり日常生活の中で違いとか、差みたいなものを感じちゃうとちょっとつらいですよ。

やっぱりそんな中で、自分にとって、ここにこだわらなくても、次があるみたいなきっかけ、すごく大事なんだなと感じます。

今は良かったところの話をしてもらったんですけど、やっぱり利用する限り、自分にとっては嫌だったとか、困ったっていうふうなエピソードもあろうかと思うんです。居場所を利用したうえで、自分にとっての困り事とか悩みみたいなのところも聞かせていただければと思います。

では、鈴木さんの方からお願いします。

鈴木: はい。やっぱり最初参加し始めた時は、自分が何年間もひきこもっていて、コミュニケーション能力も落ちているし、自分もすごく過敏になっているし、そういう状況なんで、同じ居場所に来ている人と話すときに、全然話についていけれへんかって、今から考えたら気にすることはないんですけど、その時はすごく傷ついて落ち込んだり、状況にもよるんですけど、赤裸々な話をする人がおったら感情移入してしまって、しんどいなって思ったり。

逆に自分が活動的になってきたときにブレーキをかけられなくて、自分の意見を主張しすぎたりして良くなかったなと思ったりしながら、でも、そういう中で、自分のちょうど良い塩梅みたいなものを見つけていけることができたんで、今、元気にこうやっていけているのかなと思うんですけど、最初は自分の未熟なところっていうのが出るので、その辺のところでは、色々悩みました。

西脇: はい、ありがとうございます。では続いて、宮坂さんどうですか。

宮坂: はい、僕もひきこもっていてあまり外の人と関わることがなかったんで、失敗したっていうことはあるんですけど、嫌だったってことはそんなに無くて。

当時のひきこもりから少しでも脱出したっていうのを考えると、楽しいことの方が圧倒的に多かったんで、すごく嫌だったっていうことはそんなにないです。

西脇: はい、ありがとうございます。創カフェすごいね。

野中: 気遣っている(笑)。

西脇: 普通、嫌なこと、2・3個はあるはずなんですけどね(笑)。

では、平さんの場合はいかがだったでしょうか。

平: はい。僕の場合は友人、やっぱり人間関係で、ケンカしたこともあります。最終的には仲直りをするんですけど、でもそうやって打ち解けていくってことがあるので、結果的には良いことがやっぱり多いなというふうに感じます。

やっぱり人と話す機会が少なかったこともあるので、今以上に話をしなかったんですけど、こういうふうに話せるようになっていっているので、いいかなと思ってます。

以上です。

西脇: そうですか。困ったことを聞いたかったけどあんまりなかったですね(笑)。いいことですよ。

みなさん居場所に行って、何者かになりたいとか、やりたいこととか、したいことなんかがあると思うんですが、今自分が何できるのかなみたいな擦り合わせのところでもしんどくなっちゃって、無理しちゃったりとか、焦っちゃったりとかっていうのが多いと思うんですけど、皆さん上手に過ごしていらっしゃる。そこらのことをあまり感じさせないようエピソードだったんで、さすがここに来られているだけのことがあるなっていうふうに、感心しながら聞かせていただきました。

そんな中で、鈴木さんもおっしゃっていましたが、やっぱり自分の中の葛藤とか、自分の心の在りようとか、周りとの差がしんどかったとかそういったところ、利用する中で、自分

自身の考え方とか行動とか、いろんな部分が変わっていったと思うんです。

居場所を利用することで、自分なりにこう変わったなとか、こういう変化あったよっていうふうなことについて、聞かせていただけたらなと思います。

鈴木さん、よろしくお願いします。

鈴木:そうですね、最初いろんな人が居てるので、若干個性強めといいますか…僕もですけど(笑)。そういう感じで、最初は自分自身もどうやって接していったらいいのかなとか、自分がその中でどうやっていったらいいのかなっていうような悩みがあったんですけど、だんだん色々な生き方があるんやなとか、色々なことで悩んでいる人が居てるんやなとか、そういうことが分かってきた。病気とかひきこもりになる前の自分やったら、ちょっと偏見とか持っていたかもしれないけど、多様な感じとか、自分もそうやっていけば良いということが分かるようになった。そういうところは、これから生きていくうえで強みになるなと思っています。

西脇:はい。ありがとうございます。では続いて宮坂さんどうですか。

宮坂:変化したとこで言うと、ひきこもっていた時はあらゆる感情がちょっと無に近いような状態で、塞ぎがちでよく分からなかった感情を、楽しいこととか辛いことも含めて取り戻せたことっていうのが大きいです。

通い始めて5年ぐらいになるんですけど、時間をかけて体や心が少しずつ回復して、前より元気になって、自分のやりたいこととか楽しいことっていうのを見つけられるようになった、外に使えるパワーを得られるようになったっていうのがあります。

あと、他の人と出会ったり、繋がりを持ったりすることが大切やなっていうのも、通うようになって思います。

あとは、よくある学校出て、今やったら大学、専門学校へ行って、就職して、家庭持つてとかいわゆる一般的な社会のルールみたいなものがあると思うんですけど、そういう世間一般的に言われる当たり前のルールみたいなんじゃないかと、生きていく方法もあるんじゃないかなっていうのを教えてもらった。家族の支援とか社会的な支援とか、いろいろ頼る部分もあるんですけど、そういう一般的なルールじゃなくても、生きていくっていう方法はあるんだなっていうのを教えてもらったっていうのが大きいかもしれないですね。

西脇:はい、素晴らしい変化ですね。その「生きていく方法はある」って思えるってすごく大事だと思います。やっぱりそこがストンと落ちなくて、しんどい方がたくさんおられると思います。

はい、では平さんどうですか。

平:やっぱり、当時は本当に無気力で、何かを考える気力がない状態が多かったのが、今はいろんなことに目を向けられ、興味を持てるようになったんじゃないかなと思います。前はもっと性格も暗かったと思うんですけど、こうやって笑っているのが、明るくなったんじゃないかなと思っています。

西脇:はい、ありがとうございます。暗く落ち込んでいる平さん、今の姿からあまりイメージできませんね。

はい、ではここで皆さんと一緒にね、伴走型の支援を続けてくれれば、支援者の方に居場所での様子とか、こういうふうな変化があったよ、みたいところで一言もらえたらと思います。

日下さんからお願いしていいですか。

日下:鈴木さんとは、実は同じ病院の同期みたいな感じだったんですけど、その時は僕は利用者だったんで。僕も同じなんですけど、やっぱり話すの苦手だったんですよ。今はこん

な感じで話してくれているんですけど、仕事に就いてからやっぱりしんどくなって、居場所に来て寝転がりながら愚痴とか言ってくれるんですけど、職場とか上司とかに言えないタイプにいると思うんです。でも、居場所とかがあることで、吐き出してまた前に進めるかなと思うんで、やっぱりしんどかったら直ぐに言える場所を作ってもらって、しんどくないように、倒れないようにしてもらえたらと思います。

西脇:「ともに」と言う感じですね。野中さんどうですか、ずっと長く見られてこられてますもんね。

野中:はい。そうですね、いろいろあるかなと思いますが、まず1つ創の特徴としては入口が多いのではないかと考えています。建物のどこからでも入れるという意味ではなくて(笑)、入口が多い。例えば、創で行事ごとやイベントを企画したいよとか、一緒に何かしたいなあという思いを持って来ている人もいれば、古民家が好き、古民家が何となく落ち着くから来てみたんよって人がいたりだとか、カフェで単純にお金が稼げるっていうところに来てたり、カフェの仕事には入らないけど居場所でゆっくりできるなということに来てくれたり、いろんな形での入口の多さが特徴ですね。

あと、いろんな活動に参加しなくても、スタッフと1対1で話し合ったりすることを目的に来てくれている人もいるので、様々な形でアプローチできるっていうのが、必要なのかなあと考えています。宮坂さんの変化は本人が自分で言ってくれているので。

西脇:もう補足がないってことですね。それではひなたの森、南さん補足はないでしょうか。

南:はい。これは居場所のポイントにもなってくるところなんですけども、鈴木さんも言ってくれていたように、最初はやっぱり他者とのコミュニケーションが非常に苦手でしゃべることができない、行っても楽しめないということがああると思うんです。

皆さんまた機会あればね、本当にぜひ、居場所に遊びに来てもらったらと思うんです。実は、居場所はとつてもうるさいです。みんな、がやがやしています。

でも、みんながみんな最初っから喋れるわけではないです。重ねて来ていただいて喋れるようになるんで、最初に新しく来た子とかやっぱり喋れない子たくさんおるんですね。でも、我々の居場所のメンバー、誰1人、来たからって喋ることを強要したり、体験を共有するようなことを求めたりしません。

つまり、できない自分があつていいっていうふうなのを居場所で体感してもらおう。そして、できない自分でもそこにいていいんやっていうふうなのが分かった時って、自分が変化する時なんちゃうかなって思うんです。また僕ら支援者は、自分の変化っていうのは、本人が成長したねっていうふうに捉える瞬間なのかなっていうのをすごく感じます。

そしてもう1つは、この自分の変化っていうのは必ず他人を変える力に変わるんです。ひなたの子、皆そうなんです。平君もそうなんですけど、卒業した子とか、通信の生徒会をやった先輩を見て、僕もやりたい、今来ているメンバーは、平君のように生徒会長をして、仕事もしているからそれぐらい僕もやりたいっていうふうには、他人を変える力になって、必ずこれは繋がっていくっていうふう思うんですね。

実は今日は平君やから応援したいということで、まあ冷やかしかもあるかもしれんですが(笑)、居場所のメンバーの方が何人も来てくれています。普段、人がいっぱい集まるようなところへの外出は結構渋るくせに、今日は来るんかい！ってつつこみそうになったんですけど、でもそれくらいやっぱり人を変える力っていうのを居場所は持っているし、メンバー同士の支えが一番の居場所支援かなっていうのを改めて感じる瞬間です。

西脇:はい。ありがとうございます。皆さんの変化の補足をしてもらつつもりだったんですけど、色々と思いが増えておりました。

では、次のところなんですけども、せっかく経験者の皆さんに来ていただいているので、

居場所と出会う前、居場所を知る前の家族との関係やひきこもっている自分自身に向けて、自分はこういう気持ちで過ごしていたってところなんかを、ちょっと喋りにくい内容かとは思いますが、お聞きしたいなと思っています。

居場所を知る前の心情的なものとか状況的なものをちょっとお話していただけたらと思います。

鈴木さん、お願いします。

鈴木: はい。今から数えると21~27歳ぐらいまで7年間ぐらいひきこもっていたんですけど、1年目はストレスから解放されて、何か最高やな~みたいな感覚でした。確かに中学校からのしんどさっていうのがずっとあって、人とコミュニケーションが上手くとれないとか、自分の中にある視覚とか聴覚の過敏やったりするんですけど、それがひきこもることによって解放されて、すごい気持ちが楽になっていったんです。なので、自分健康になっているってその時は思っていたんです。

今、客観的に見たらそんなことはなく、1年間全く外に出なかったし、親以外とも喋ってなかったし、生活リズムもめちゃくちゃでした。それを親が見兼ねて病院に入院したんですけど、それがすごい僕にとってはショックで、その結果このままやったらあかんっていう気持ちが出てきて、何とかしないとイケないなと思うんですけど、現実はどうもならん、解決できないなっていう日々が続いたんです。

4年目からは、さっき言ったショートケアというか、居場所のようなところに嫌々通い始めたんです。最初は嫌だったんですけど、いろんな人に出会って、その中で自分も考え方とかそういうものが変わって行って、人と喋るようになって明るくなっていったかなって思うんです。気持ちも楽になってきたし、外にも出られるようになって。病院での治療の結果でもあるとは思いますが、過敏さも取れてきて、実際に社会復帰に向けて歩めているっていう実感がちゃんと生まれてきたんで、良かったかな。そういうふうな形で、7年間の中でも最初と中盤と終盤で気持ちは変わっていきました。

西脇: ありがとうございます。鈴木さんの場合、真ん中があるのが特徴ですね。ショートケアっていうね。

鈴木: はい、そうですね。

西脇: はい、ありがとうございます。では、宮坂さんどうですかね。

宮坂: 僕の親は割と一般常識にとらわれている人なので、最初は次の仕事はどうするんやとか、さっき言った当たり前のルールに戻そうと、ひきこもっている時からちよいちよいわれていました。僕自身も、その当時はどうしようかっていうのをずっと悩んでいるけど、したいことも特になし、どうしたらいいのか本当に分からなくて。かといって、親は見守っているだけで、特に何かしてくれるわけではなくて、僕もそれを、どこに相談していいか分からなかったし、どう行動したらいいのか分からなかったの、とまあ家には居たっていう状況でした。その当時はすごく焦っていて、何かしないとイケないけどどうしたらいいのか分からないっていう状態がずっと続いていた感じです。

学生の頃、僕は割と友達はいましたが、引っ込み思案で人見知りでおとなしい性格だったので、学校のクラスっていうので区切られると、いじめの標的になることがやっぱり多かったです。中高はほとんど誰かしらにいじめを受けていました。大学へ行くときに、そういう環境がすごく嫌だったので、誰も地元の人が行かないような専門的な学校へ、ゼロからもう1回作り直そうと思って、全然違う大阪の大学に行ってリセットするみたいな感じで。

そこでは、たまたま運良く友達ができて楽しく過ごせたんですけど、就職してから割と過酷な労働で、体を潰してしまったのもあって辞めたんですけど、最初は貯金があったので、

数年は遊んでいたんです。そこから段々お金がなくなってきて、家に居てるしかなくなった。当時は 30 歳そこそこで、友達とも生活の環境が変わっていくタイミングだったので、話しも合わなくなってくるし、仕事もしてないので自分から遊びに誘うっていうのもなかなか難しい。実際会ったところで、環境が変わってしまって話が合わないのが段々控えるようになって、家に一人で居てるしかなかった。

家族との関係性って言われると、その当時は、会話もほぼほぼなかったですし、一般的な価値観を割と強いられているなって感じで。正当なことを言われすぎて、何も反論できない状況やって、はぐらかしながら何とか家に居てたっていうぐらいで、もう生きていいのか生きていないのかよく分からないというか、あまり感情がなかったです。

創に来てから、そういうルールじゃなくても何とかなるのではないかなとか、いろんなことを教えてもらって、昔の事を掘り下げて、親とぶつかり合って喧嘩したこともあります。いじめを受けていたことは一切、親にも先生にも誰にも言わなかったので、そういう状況とかを、初めて聞くよう感じで話を聞いていたんで、びっくりしたんかどう思っていたか分からないですけど、ようやく、こうやって生きてきたっていうのを理解してもらって、今は支えてもらっているような感じ。

まあ、良好になったのか分からないですけど、前よりはコミュニケーション取れるようになったと思います。そんな感じです。

西脇: はい、詳しい説明ありがとうございました。

この「普通」とか「当たり前」っていう言葉って、特定の状況にある人にとっては毒とか刃になるものじゃないかなっていうふうに、やっぱりこういう話を聞くとと思いますね。

どっちがいいとか悪いとかじゃ決してないんでしょうけど、自分自身も、普通でありたい、当たり前で暮らしたい。親も普通でいて欲しい、当たりの暮らしをして欲しい。でもやっぱり、その中に、意思疎通しきれない部分であったり、状況を共有できない部分、あと自分 1 人ではどうしていいか次の指標を見い出せないというふうなものがあるんじゃないかなと思います。

そういった話を、宮坂さんみたいに話していただくと、会場の皆さんに感情や状況っていうのはすごい伝わるかなというふうに思いました。

じゃあ次、平さんお願いします。

平: はい。僕の当時の心境でいうと、中学時代は自分の病気が周りに浸透してなかったっていうのがあって、自分では行けないっていう状況なんですけど、周りには分かってもらえない。怠けているだけなんじゃないか、ただ来てないだけなんじゃないかっていう声があったりして、たまに学校へ行ったときに、同級生からの視線をすごく浴びるんです。いつも来てない人が来たからそうなるのも分かるんですけど、そういう注目浴びる状況がすごいプレッシャーというか、何かを求められている気がしてすごく嫌だった。周りに悪意はなく、もっと来てくれよっていう声もあったりするんですけど、こっちは行けたら行っているっていう思いもあったりして、そういう励ましとか善意とかもマイナスに受け取ってしまうようなことが多くありました。

そうやって、学校に行けなくなっていることに対しても後ろめたさというか、こんな自分で大丈夫かっていう思いが、中学頃から 15、6 歳頃までずっとあったんで、受け取り方がずっとマイナス方向になっていました。

西脇: はい、ありがとうございます。今回、3 人とも本当にリアルに居場所がないとき自分はこうだったっていうふうな、等身大の状況っていうのを説明していただけたかなと思います。

とはいえ過去の話、前段で話していただいたように、皆さん居場所を利用しながらそれぞれ、そこから脱却した新しい日々を歩んでおられます。

そうした中で、今後の展望についてこういうふうなものを考えていることをちょっと話していただけたらなと思います。

そしたら鈴木さんからお願いしていいですか。

鈴木: はい。前は御坊にある会社で働かせていただいて、たまに休み時間に遊びに行ったりとかしていたんですけど、そこは、障害者枠じゃない一般枠で、普通の人と一緒に働くことになりまして、少し労働条件も厳しかったのもあったんで、ちょっとついていけない状況だったっていうのがありました。このままだったらまた元に戻ってしまうと思ったんで、自分としては一般枠で働いていきたいって思いもあったんですけど、自分の状態を考えたら、1回戻って障害者枠で働いた方が合っているんじゃないかなっていうので、もう1回就労移行施設に通って、実家の近くの会社で障害者雇用していただいています。

今事務職なんですけども、障害者枠だと会社の人にすごい配慮していただけて、やっぱり仕事内容も全然違いますし、そういう前提で働かせていただいているので、すごいやりやすい。やっぱり一般枠やと就職すること自体、今の時代やったら厳しかったりするやろうし、自分も無理なところは無理なんで、そこを自分もちゃんと理解して、無理せずに続けていくってことが今の目標になっています。以上です。

西脇: はい、ありがとうございます。
次は続いて宮坂さんお願いします。

宮坂: 昔は一般常識的なルールに乗ろうと悩んだり、そこへ戻ろうとしていた部分もありました。よく言われる将来とか、この先どうするのかとか、割と悩む原因になると思うんですけども、僕の場合は、もうあまり気にしなくなりました。

人それぞれ考え方があってと思いますけど、僕も支援は受けているし、家族の支援がなかったらどうするかとか、色んな問題点はあるとは思いますが、僕はその日その日を生きるっていうことにして、先のことにはほとんど重点を置いていないんです。

例えば 10 年先とかのことを考えて、それで悩んで苦しむくらいやったら、今を楽しんだ方がよほど良いので、あんまりもう最近は考えないです。

なので、希望で言えば、そういう人たちがいるっていうことを、社会が受け入れてもらえる環境がもっとあればいいのになっていうのはありますが、僕自身は本当に、すごい先の未来とか今は考えないようにしている。そんな感じです。

西脇: はい。それも、1つの考えとして全然ありだと思います。
はいでは続いて平さん、お願いします。

平: はい。僕は今まで、自分はこうしなきゃいけない、こうならなきゃいけないっていうのを背負いながら生きていたんですけど、通信の学校に通って卒業して、その流れで就職っていう形で仕事に就けている状態なので、仕事は接客の販売営業なんですけど、この仕事を頑張っていきたいっていう思いが強いです。

でも、何とかかなるかなって言うのが正直なところですよ。はい、以上です。

西脇: はい。ありがとうございます。

よく出会いが人を変えるなんて言いますよね。今日ご紹介いただいた3人の皆さんがそれぞれの居場所と出会うことで、やっぱりいろんなものが変わってきたんじゃないかなっていうふうに感じました。

その中で、自分らしさと向き合う、自分にとっての幸せであったりとか、やりがい、生きがいっていうふうなものに折り合いをつけ、納得して生きていこうとするっていうのがすごく大事かなというふうに感じました。

ともすれば、どうしても標準的な生き方とか、これがベーシックな段階を追った社会人のあり方みたいなものを、悪気はないんですけどね、イメージしがちなんじゃないかなと思います。

ます。それは、経験者本人もそうでしょうし、支援者であったり、家族であったり。

ただやっぱり一人一人違うわけで、その自分らしさを、自分のできることと照らし合わせて、納得して、日々を幸せにとは言わないんですけど、やっぱりこの生き方に自分は納得しているってその自分との折り合いをつける、納得した生き方を探すっていうようなお手伝いみたいなものを、この居場所の中でしていただいているのかなっていうふうに、私個人的なんですけども感じました。

その3人の将来の展望とかを聞かせていただいたんですけども、それぞれの望む未来が実現することを応援しています。

最後になるんですけども、今日は3人の支援者の方々にも来ていただいています。

今日話していただいた3人の経験や思いを受けて、やっぱり支援者として、こういう場で会場の皆さんにこういったことを知っておいていただきたい、こういうことを伝えたいっていうふうなこと、それぞれお聞かせ願いたいと思います。

そしたら日下さんからお願いしますね。

日下:うちの理事長の宮西が「人生3回失敗せえ」とかってよく言っているんですけど、僕なんか「失敗したくない、勘弁してくれ」と断って色々やらなかったんです。でも、鈴木さんも色々失敗してしんどかったこともあったけど、今は転職して頑張っているんで、失敗しつつまた進んでいっています。僕も去年ここに来させてもらって「国体出ます」って言って、国体出てメダルとかいただいて、あと大学も行って、やっぱりしんどいなと思いつつも進んで行っています。よく失敗することも多いんですけど、まずチャレンジということで。

やっぱり、そういう居場所とかに行くのも最初は怖いですし、話せるのかなとか、なんか言われたらどうしようとか思うかもしれないんですけど、チャレンジしてみようかなって思ったときに、ちょっと相談しに行くなり、居場所に行ってみたりとかしていただいたら、案外ちょっとしたことのおかげが、動き出す第一歩なのかなと思います。以上です。

西脇:はい。では続いて野中さん、どうですか。

野中:はい、そうですね。最初にも話をさせてもらいましたが、ひきこもる当事者は、関わる全ての人に気を遣っているし、家族、親にも気を遣っている、社会にも気を遣っている、ものすごくたくさんの気を遣っている状態だということを知っていただきたいなと思います。

宮坂さんが、しきりにレールのお話をしてくれたいみたいに、なぜ焦るのかって言うと、一般的なレールというものに戻ろうとする、家族も戻ってくれないかなって願う。その、「戻らなければならない」っていうところにもものすごく力を入れてしまうので、しんどいですよね。元のレールに戻るっていうのは、ものすごいスピードで走っている電車に飛び乗りにいくような、そんな感じなのかなって思います。元のレールに戻す支援をではなくて、色々な活動を行うことで、多くの価値観に触れ、様々な生き方があることを知る。そして、その様々な生き方の1つとして、元のレールに戻るという選択もあるし、戻らないという選択もあることを知ることが大切だと思います。鈴木さんのように、色んなことを経て今、障害者雇用で働くことを選択し結果的にレールに戻るといえることがあると思います。そこに戻そうとするとか、戻ろうと思うとかではないのかなと思います。なので、色んなレールがあり、道があるということ、居場所で色んな人と出会う中で知っていくというのが必要なのかなと思います。

あと、家族との関係です。宮坂さんも少し言ってくれましたが、家族もレールに戻そう戻そうと思っていると、どんどん家族関係が悪くなってきますよね。そもそも、その家族っていうものを考えたときに、本人も含めた家族にちゃんとなっているかな。本人と家族って分けるのではなくて、家族っていうのは、当たり前のお話ですけど、本人を含めた家族なんやっていうふうなことに、気付くこと、そこに着目してもらって家族の形の再構築をしていくことが大切です。例えば大学出て、就職して、結婚して、みたいなそういうふうなレールを親自身も考えて

いたのかなと思うけど、そうじゃない生き方っていうのを家族全体で考えていくっていうのが必要なのかなと思います。

西脇: はい。ありがとうございました。それでは南さん、お願いします。

南: はい。平君との最初のエピソードをちょっと紹介したいなと思っています。

本当に最初の相談で、初めて本人さんに会ったときのエピソードです。

「頑張ってきたな〜」っていう声をかけると、彼はその一言でポロポロ泣き出したんです。別にすごく感動的な言葉をかけたわけでも、泣かそうと思って言ったわけでもありません。ほんまに頑張ったねっていう声をかけただけで、彼はその場でバーッと泣いてしまったんですね。その時に、彼はずっとずっと闘ってきたんやなっていうのを感じたんです。

3人の方から出たと思うんですが、何とかしないといけないけど分からんとか、焦っているけど、どうすればいいか分からん。これ以上後戻りはしたくないけど、出口のないトンネルを進み続ける怖さ。本当にご本人はその意識の中、ずっと1人で闘っている状態なんだっていうのをまず皆さんにご理解いただけたらと思います。

それが分かってももらえない、孤独感や孤立感の中1人で闘うと、疲れ果ててしまうんですね。そして、疲れ果てると意欲がなくなって無気力になってしまうんです。なので、傍目には何にもやる気がない、無気力のように見えるかもしれんけど、実は闘って闘って疲れ果てているのかもしれないよっていうのを、まず、皆さんにご理解いただけたらと思っています。

本当にどういう支援が正解なのかっていうのは、正直今でも僕は分かりません。答えがあるってわけじゃなくて、一人一人にそれぞれの答えがあるので、その答えに寄り添えるような支援をって考えたときに、僕らができることは、日々愚直に本人さんに寄り添いながら関わっていくこと。そして、メンバーさんから学ばせてもらって関わっていくことっていうのをやり続けていかなあかんのかなと思っています。本当に魔法のような支援っていうのはできないんだけど、そういうような支援をやっているということを少しでもご理解いただいて、応援してもらえたら嬉しいなと思いますので、最後に会場の皆さんにお願いをしたいと思います。よろしくをお願いします。

西脇: はい、ありがとうございました。日頃から、熱心に活動されている3つの居場所の話ということで、非常にリアリティがある話を聞かせてもらえたんじゃないかなと思います。

また昨今、多様性っていうふうなことがよく言われると思うんです。正解は1つじゃないよとか、それぞれにそれぞれの正解があるとか。そういった意味でも今日のお話の中で、ちょっと自分自身の視点が広がったように感じました。

ここで一旦このパネルディスカッションは終了させていただくんですけれども、この後、質疑応答の時間を設けたいと思います。

【質疑応答】

西脇: すごくシンプルな質問。「自分のことが好きですか」という質問です。今のご自身どうですか、鈴木さん。

鈴木: ひきこもる前、しんどさが積もっていたときはすごい嫌いでした。今は、まあ、まあまあまあ……

西脇: 人生まあまあくらいがいいですよ。続いて宮坂さんどうですか。

宮坂: 僕はまあまあ好きですね。最近は好きなことをやっているの、自分らしく生きられているんじゃないかなと。

西脇: 何かの本によると、幸せは感じるものらしいので、今の宮坂さんはしっかり感じていら

つしゃるのかなと思います。
では、平さんどうですか。

平: 嫌いではないです。今、こういう状態になって過去思い返したら、嫌いなところはやっぱりあるし好きとは言いづらいけど、まあ嫌いではないです。

西脇: じゃあこれからもっと好きになっていくよう、さらに変わっていくってことですね。

西脇: 続いての質問です。19歳の男性の方からです。「高校に入学してから3年間引きこもり状態です。昼夜逆転しているのですが、どうすれば良いでしょうか。時々大学受験しようかな、アルバイトしようかな等言うのですが、今のところは無理みたいです」。これはもしかしたら、ご家族の方からの、質問かもしれませんね。支援者の方に聞きましょうかね。昼夜逆転の良い解消の仕方みたいなのがもしあれば、日下さんどうですか。

日下: 昼夜逆転は難しくて、僕もひきこもっていた時は朝の5、6時までゲームやって、昼に起きてくるっていうリズムだったんですけど、居場所に行くってなったらやっぱりどうしても起きなければいけなくて、夜は疲れて寝てしまってちょっとずつ昼夜逆転がなおっていった、僕の場合はそんな感じでした。

西脇: はい。ありがとうございます。では、野中さんに聞きます。家族以外に関わりがない状態で昼夜逆転を治す方法はありますか。

野中: 本人がなおしたいって言うなら、もう薬使うしかないです。けど、なおさなくていいと思います。夜起きていて、昼間寝ていたらあかんって誰が決めたんよって話やと思うので、夜起きている時間をどう如何に楽しく過ごせるかっていうのが大事やと思うんで、「昼夜逆転はあかん」みたいなことを思わない方がいいかなと思います。

西脇: なるほど。じゃあ南さん、あなたは昼夜逆転したらどうします。

南: 僕も、それが直さなあかんものかどうかをしっかりと見極めたいなっていうふうに思います。昼夜逆転には必ず理由があります。昼間のみんなが活動している時間に起きるのが大変苦痛、もしくは、しんどいっていう子に昼間起きなさい、苦痛の中におりなさいっていうのは、本人のメンタルヘルスのところ言うたらそれはどうなのかなというところがあります。本人が、やっぱり昼間に活動したいんやっていうのであれば、それができるようにしっかりと相談したり、一日起きといて調整するしかないよとか、いろんなやり方があるかなと思うんです。でも、まず昼夜逆転になっている理由をしっかりと本人とお話をする中で、今、夜中に起きているんだったら、例えば夜中の仕事を探せばいいんですよ。逆にそっちの方が、役に立つことだったり、お金が稼げる方法がたくさんありますので。そんな形で、昼夜逆転が悪いつとところにこだわりすぎないように、本人がもしかしたら、そこにとらわれているんやったら、そんなことはないよって、家族や周りが声かけなんかしてもらったら、本人ちょっと楽になる部分もあるんかなと思いますので、解決方法とは真逆のアドバイスになりますが、こんなふうに思っております。

西脇: はい。ありがとうございます。解決方法じゃないかもしれませんが、プロの意見なんです、参考にさせていただきたいと思います。

お時間の都合で次の質問が最後になっちゃうんですけども、これは経験者の皆様にお伺いします。「いつか居場所から卒業したい、しなければならぬというふうな気持ちはありますか。そして、不安とか、或いは一歩進むために必要であると考えていますか」という

質問です。

居場所を卒業することが、自分の人生を一步前に進めていくために、いろいろ不安もあるかもしれないんだけど必要と感じているかどうか。これは個人差があると思いますので、皆様の思うところを教えてくださいたいと思います。

鈴木さんからお願いします。

鈴木: 僕の場合、今大阪の実家に住んでいて、ヴィダ・リブレは御坊なんで、御坊で働いていたときは毎日のように行っていましたけど、今は大阪で働いているし、御坊には月1回くらいしか行けないんです。でも、仲の良い友達がいっぱいいてるんで、月1回遊びに行って、僕も楽しいしみんなも楽しい。後輩の事も気になるし。こうやってヴィダ・リブレから声かけられて、今日ここに座っていたり、そういうことも含めて、何かの役に立てたらという感じで、あまり卒業とかは考えてないです。

西脇: はい、ありがとうございます。宮阪さんどうですか。

宮坂: 僕もそんなに卒業は考えてないです。「家以外の家」じゃないですけど、気軽に行ける場所を他についていう意味で、そういうところを持っているのはいいことやと思うんで、「区切り」みたいには思っていないです。

西脇: はい。ありがとうございます。平さんどうでしょうか。

平: はい。卒業しなきゃいけないっていうふうに思う必要はないと思います。卒業したとしても、そこで関わった人との繋がりが切れるわけではないので、卒業に対して執着する必要はないと思います。

西脇: はい、ありがとうございます。

以上をもちまして、質疑応答を終了し、本日のパネルディスカッションを終了したいと思います。パネリストの皆様、本日はありがとうございました。

(5) 田辺市「ひきこもり」検討委員会(令和6年度)議題

(出席者はひきこもり検討委員の人数)

<p>第 1 回(R6. 5. 25) 出席者 30 名</p>	<p>第 2 回(R6. 10. 26) 出席者 24 名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員紹介 ・ 田辺市のひきこもり支援について 令和5年度事業報告 令和6年度事業計画 ・ その他 関係機関からの紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度 上半期事業報告 ・ 令和6年度 下半期事業計画 ・ 講義 『生きづらさのある若者への新しい支援』 ～訪問看護とテレワーク就労の可能性～ 一般社団法人 Gifted Creative 代表理事 峯上 良平 氏
	

小委員会(令和6年度)議題(出席者はひきこもり検討小委員の人数)

<p>第 1 回(R6. 6. 20) 出席者 12 名</p>	<p>第 5 回(R6. 11. 21) 出席者 10 名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ ひきこもり支援啓発講演会について ・ 小委員会の予定について ・ 啓発について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度ひきこもり支援啓発講演会 について ・ 令和7年度ひきこもり支援啓発講演会 について ・ 啓発について
<p>第 2 回(R6. 7. 18) 出席者 11 名</p>	<p>第 6 回(R7. 1. 16) 出席者 11 名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ ひきこもり支援啓発講演会について ・ 第2回ひきこもり検討委員会(大委員会)講師について ・ 啓発について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和7年度ひきこもり支援啓発講演会 について ・ 支援の報告 ・ 啓発について ・ ひきこもり検討委員について
<p>第 3 回(R6. 8. 22) 出席者 9 名</p>	<p>第 7 回(R7. 2. 20) 出席者 7 名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ ひきこもり支援啓発講演会について ・ 第2回ひきこもり検討委員会(大委員会)講師について ・ 啓発について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和7年度ひきこもり支援啓発講演会 について ・ 支援の報告 ・ 啓発について
<p>第 4 回(R6. 9. 19) 出席者 11 名</p>	<p>第 8 回(R7. 3. 13) 出席者 14 名</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ ひきこもり支援啓発講演会について ・ 第2回ひきこもり検討委員会について ・ 高校訪問について ・ 啓発について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和7年度 ひきこもり支援啓発講演会 について ・ 令和7年度 ひきこもり検討委員会に ついて ・ 令和7年度 事業計画について

(6) 「ひきこもり」検討委員会 講義

『生きづらさのある若者への新しい支援』 ～訪問看護とテレワーク就労の可能性～

講 師 : 一般社団法人 Gifted Creative
代表理事 峯上 良平 氏
日 時 : 令和6年 10月 26日 14:00～15:00
参加者 : 33人(事務局含む)



【講義内容】

自己紹介



一般社団法人Gifted Creative 代表理事

- ・生きづらさを抱えた(不登校・ひきこもりや精神・発達障がい)子どもや若者のメンタル回復&社会復帰支援事業
- ・空き家を活用し、当事者向け生活訓練&就労準備用シェアハウスを4軒運用
- ・障がい者雇用コンサル&メンタルヘルスアドバイザー
- ・訪問看護ステーションHull施設長

趣味・生きがいなど

- ・自分らしく、笑顔でごきげんな生き方ができる仲間を増やしたい
- ・読書や猫と一緒にゆっくり過ごす
- ・社会課題をどう解決していくかが人生のテーマ

Gifted Creative
峯上 良平 (みねうえ りょうへい)

一般社団法人Gifted Creativeを運営させて頂き、生きづらさのある子どもや若者の社会復帰支援をさせて頂いております。

他にも、障がい者雇用のコンサルティングや、企業の中で、退職者の復帰支援も行っております。

この5月から、訪問看護ステーションの施設長としても活動しております。

趣味・生きがいは、自分らしく笑顔でごきげんな生き方をしていきたいなというふうに

思っています。そういった仲間を増やしていけたらなと考えているので、よろしくお願いいたします。

他にも、読書とか猫とかとゆっくり過ごすことが好きです。

社会課題をどう解決していくかっていうところが、僕自身の人生のテーマだと考えておりません。

元々は、SE(システムエンジニア)をやっておりました、20歳のときに、就職したのですが、そこで残業のストレスや、発達特性、認知の偏りがあり、鬱になりまして、そのまま復職もうまくいかず、精神病院にも入院してしまいました。

そのまま退職して、実家が田辺市上芳養なのですが、そこでひきこもっていた当事者になります。

2010年～13年というのは、家の中でひきこもって、親とも喋らないような状態でした。何をやる気もおきない、読書も映画も見れない、ご飯を食べても全く美味しくないというような、重度な状態でした。実家が梅農家だったということで、渋々手伝いをし始めるようになり、生活リズムが少しずつ整ってきました。農業をすることでようやく人間らしい感覚を取り戻すということができました。とはいえ、将来の不安であったり、農家の収入が少ないなど、悩みはまだ残っており、メンタルの不安定さがありました。それをどうするかを考えた時、たまたま心理学や、認知行動療法に出会い、そこで自分自身で学びながら試し、試行錯誤をして、メンタルも元気な状態になっていきました。

自己紹介



過去は・・・?

- 2010～2012 富士通関西システムズSE
-配属3か月で残業によるストレス、認知の偏り、発達特性で鬱(二次障がい)に・・・!
復職失敗、精神病院に入院、後に退職!
- 2012～2013 実家にてひきこもり(和歌山)
-昼夜逆転、毎日死にたい...
- 2013 農作業で体力づくり、心理学、認知行動療法を学び、トライ&エラー
-メンタル改善、寛解
その後自己理解を深め、趣味の腕時計を武器に時計屋として起業
- 2018 一般社団法人Gifted Creativeを起業

Gifted Creative
峯上 良平 (みねうえ りょうへい)

なぜ生きづらさを抱えた子どもや若者たちの社会復帰支援？

高専時代の友人、西村将人さんの過労自殺

- ▶ ムードメーカーで誰にでも優しく、気配りが出来る非常に良いやつ
- ▶ 学生時代、テスト前日にも関わらず、睡眠時間を削ってまで私に勉強を教えてくれた
- ▶ そんな彼に自分は何もできなかった悔しさ
- ▶ 彼のお姉さんが
【もし和歌山に帰ってきてても何とかかなと思える居場所があったら死ななかつたかもしれない】

⇒そんな居場所を和歌山につくりたい！

2018年5月より活動を開始

その後、収入面では自分で何とかしないといけなくなっていくところで、それまで趣味であった腕時計の修理販売に力を入れ、起業しました。

そんな中、なぜ生きづらさを抱えた子どもや若者たちの社会復帰の支援をしているのかなのですが、僕自身、勉強は、それほど得意ではなかったんですね。高専時代に、寮に住んでいたのですが、ある友人が、テストの前日とか、時間的には当日なんですけども、勉強を教えてくれ、すごく恩がありました。

僕自身社会復帰をして、のほほんと暮らしてる中、急遽、(その友人が)亡くなったっていうことを聞きました。すごくお世話になったにもかかわらず、自分、何も恩返しできてないっていう悔しさが強くありました。彼の一回忌のときに、彼のお姉さんが、もし【この和歌山に帰っても、何とかかなと思える居場所があったのなら、死ななかつたかもしれない】っていうことを、ぼそっとおっしゃられたので、そんな居場所をつくりたいと、この活動を始めました。

我々のミッション、「全ての生きづらさのある子どもや若者たちが自分らしく笑える社会を実現する」ということを掲げております。

ビジョンとしては、「答えのない苦しみを抱えているあなたの一番最初の理解者に。不登校だって、ひきこもりだって、障がいがあったって、どんな人でも社会と繋がれる、働ける、自分らしくごきげんに生きていける。そう思える社会を、仲間たちを創る」ってことを大事にしております。

行動指針としては「本音で話す。挑戦し続ける。失敗から学ぶ。」ってことを大切に、これまでやってきました。

訪問看護ステーションHullが担う役割とは

- ▶ ①初回無料訪問による相談を行い、母親からのヒヤリング、アセスメントを行う
- ▶ ②もし発達障がいや適応障がい、メンタル不調など医療的または福祉的な支援が必要な場合には関連機関を紹介
- ▶ ③医療機関からの指示書が出れば、Hullとして訪問し、ご家庭に合った支援と各機関の連携体制を構築
- ▶ ④体調が整えばGifted Creative、テレワークカーズ柏(就労移行)とも連携しながら就労支援
- ▶ ⑤シェアハウスの住んだり、心理士によるカウンセリング、グループワーク、SSTを行い、自己・特性・障がい理解を深める
- ▶ ⑥就労後のサポート、定着支援を行い、就職先企業とも連携、面談なども行う

一般社団法人Gifted Creative

ミッション

全ての生きづらさのある子どもや若者が自分らしく笑える社会を実現する

ビジョン

答えのない苦しみを抱えているあなたの一番最初の理解者に。
不登校だって、ひきこもりだって、障がいがあったって、どんな人でも社会と繋がれる、働ける、自分らしくごきげんに生きていける
そう思える社会を仲間たちと創る。



行動指針

1. 本音で話す
2. 挑戦し続ける
3. 失敗から学ぶ



訪問看護ステーションHullが担う役割とは、こういった形のステップでやらせて頂いてます。

初回は、病院にかかっているようが、かかってなかつたろうが、無料で訪問させて頂きませう。ご本人さんでもいいですし、お母さんからでも構わないので、どちらか可能な方からヒアリングをさせて頂きませう。

メンタルヘルスに関わる症状の部分が見えてきたときには、しっかりと医療に繋いだり、発達障がいなどがあるとなれば、福祉と連携しながら包括的に支援をしておりませう。

3番目に医療機関に繋がって頂いて、指示書が出れば、我々としても訪問し、ご家庭に合ったオーダーメイドの支援をさせて頂きながら、各機関に情報提供を行っていきます。

体調が整ってくれば、我々も就労支援の部門がありますので、そちらで就労支援をしたり、外部の千葉県にあるテレワークカーズ柏というテレワーク専門の就労移行支援事業所と連携

しながら、訓練を行う形を組んでおります。

実際、この段階ですと、シェアハウスに住むということも可能になってきます。また、心理士さんによるカウンセリングや、グループワーク、SST、その中で自己、特性、障がい理解を深めて頂きます。

就労後、働いた後も、訪問看護は医師の指示書があれば使うことができますので、定着支援も引き続きやらせて頂くということが、他の訪問看護ステーションと異なり、企業さんとも連携をしっかりとやっています。

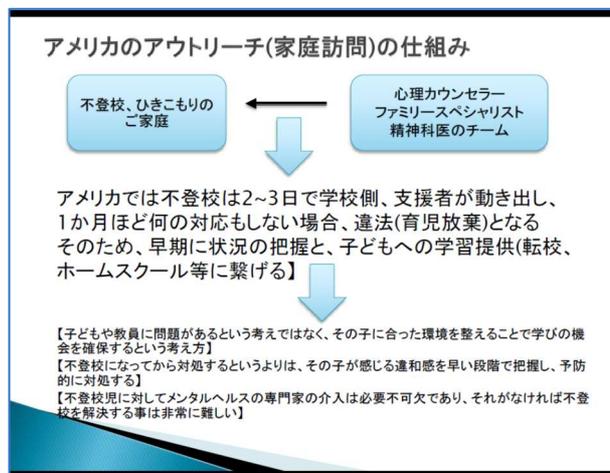
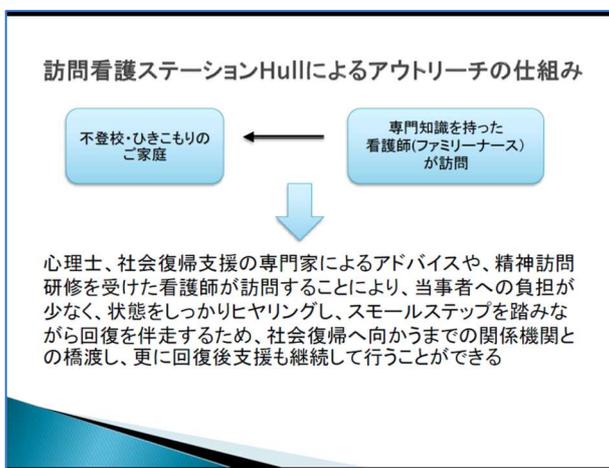
我々はこれまで福祉的な就労のA型、B型作業所は一切やってきてないのですが、それにも理由がありまして、制度の中で、この支援ができる、この支援ができないとなると僕は、ちょっと違うと感じており、やらずに来ています。基本的に訪問看護ステーションが企業さんと打ち合わせしようが、情報提供をしようがお金は入ってこないのですが、当事者のためには必要なもので、そこもしっかりやらせて頂いています。

アウトリーチ、家庭訪問のところは、アメリカなどの海外の仕組みを参考にさせて頂いています。不登校、ひきこもりの支援は、海外では異なっておりまして特に面白かったのが、アメリカで、不登校になり2、3日経つと、先生、学校側から家庭にアクションがあります。それでも1ヶ月ぐらい対処をしなければ、親は裁判所に呼び出されて罰金を払わされます。

ネグレクトと同じように扱われているというところで、結構、海外の方ですと、早期に専門的な、こういった心理カウンセラーであったり、ファミリースペシャリストって言われる専門家であったり、精神科のチームが組み、すぐに介入をするという、事例を見たときに、専門家が早期に入る必要があるんじゃないかなというところをまずヒントとさせて頂いています。

特にその中で、この3つぐらいあるのですが、子どもや教員に問題が、どちらかにあるという考え方ではなくて、その子に合った環境を整えることで学びの機会を確保するという考え方を大切にしており、不登校になってから対処するというよりは、その子が感じる違和感を早い段階で把握して、それを予防的に対処する。

そして、不登校児に対してメンタルヘルスの専門家の会議は、もう必要不可欠であり、それがなければ、不登校を解決することが非常に難しいと海外の専門家たちは考えております。



実際、それをどうやって日本で行うかを考えたときに、訪問看護ステーションであれば、それが可能になると考え始めさせて頂いています。実際、我々は心理士さんであったり、社会復帰支援の専門家によるアドバイスであったり、精神科訪問研修を受けた看護師が訪問させて頂くことによって、当事者に負担が少なかったり、情報をしっかりと、医療的な立場からも見させて頂きながら、スモールステップを踏みながら回復、そして伴走して行きます。社会復帰に向かうまでの関係機関との橋渡しもきちんとさせて頂く。不登校であれば、復学なのか、それか別の通信制やフ

リースクールなのか等、その子に合った学習環境を選ぶお手伝いをします。その環境が変わるときには体調崩す場合もあるので、そこもケアしながら、安定して復帰できる体制を作っております。

具体的に、訪問看護で何をしてくれるのかは、もちろん心や身体のケアを行って、生活リズムを整えるってことを第1優先にやっていきます。

そこがある程度体調や不安の気持ちが落ち着いてきた段階で、不登校であったり、ひきこもりになってしまった原因分析を行います。本人の特性、また発達障がいがあるかどうか、精神障がいの有無も、見させていただきます。看護師が定期的に訪問することによって、信頼関係をきちんと作るとよく出てくるのが、コミュニケーションが苦手で、ちょっとしたすれ違いによって、無視されたりハブられたりした経験から学校に行けなくなったという親にも言っていないことが聞けたりします。

あとは、当事者の方であった、学びの選択肢の提示、青年の方であれば働くまでのスモールステップをどの段階からやっていきましょうかというところを一緒に考えさせて頂いて、最終的には、ご本人に選んで頂くスタイルでやっております。

もし、精神発達障がいがあれば、その理解であったり、例えばパニック発作が起こってしまったり、なかなか人前に出られないっていう課題であれば、その発作がこういう状況の時起こるなど、原因も一緒に分析させて頂きながら、どう対処していくか、起こった場合、どうして欲しいのかを理解した上で、それを職場に伝えることができれば、対処が分かり、助けてくれる環境があると分かると、パニック発作がなくなり、働くことが出来たケースもあります。

このようにその方の取扱説明書みたいなものを一緒に作らせて頂いて、それも本人の了解のもと、企業さんにも提供するというのをやっております。

治療に当たっても、本人が、なかなかお医者さんに行ったときに病状をきちんと伝えられなかったりもするので、そういうときにも、事前にちゃんと薬飲んでいるか飲めてないか、家庭環境はどうなっているかなど訪問看護師がきちんとチェックし、情報も提供します。

あとは、お父さんお母さんがこうなって欲しいっていうのと、本人がこうなりたいたいっていうそれぞれの目標がちょっと違うってこともあったりもするので、そこを調整させて頂いたりします。お母さんが、どうしても心配症になってしまい、ああしなさい、こうしなさいと過干渉になってるケースとかもあるので、そういうときにはきちんと我々が伴走するので、安心して下さいねとお伝えします。子どもが成長する機会や考えることを先回りして取っていき、本当の主体性がなくなってしまったり、社会復帰するのが難しくなってくるので、そういったところもフォローし、その子が安心して家で過ごせる環境を作ります。

あとは、今のところ、学校への情報提供はないのですが、もし、復学をするときに、発達特性があって、合理的配慮が必要だっというケースが出てくれば、具体的な対応方法も学校に情報提供したいと考えております。

また、実際に福祉的就労されているところであったり、企業さんにも、その本人さんの情報は、許可ある事が大前提なんですけども、理解していただいた上で働いて頂く方が、我々は良いと考えております。

なぜ、訪問看護を始めたのかですが、我々は6年半ひきこもり支援を中心にやらせて頂き、半分以上が、不登校の経験や不登校からそのままひきこもりに移行してしまっているという課題に気づいたからです。

訪問看護で何をしてくれるの？

- ▶ 心や身体のケアを行い、生活リズムを整える
- ▶ 不登校・ひきこもりの原因分析、本人の特性理解、発達障がい、精神障がいの有無、コミュニケーションに困らないかの確認
- ▶ 当事者であった、学びの選択肢の提示や、働くまでのスモールステップの構築を一緒に考え、選んでいただくお手伝い
- ▶ 発達・精神障がいがあれば、理解、対応方法の知識共有や、状態を医療機関に提供し、より良い医療の提供(服薬状況、状態を丁寧に伝える)
- ▶ 家族の目標のすり合わせ、子に対する接し方、家庭環境の調整
- ▶ 学校、福祉的就労先や一般企業、障がい者雇用企業に情報共有及び調整

何故、Gifted Creativeが訪問看護を始めたのか

- ▶ ひきこもり支援をする中で、不登校からひきこもりに移行していた事例がかなり多かった
- ▶ 長期に社会から離れてしまうと、本来の社会経験による成長が失われたり、孤立や孤独により、精神障がい、認知の偏りなど、二次障がいが生じていた
- ▶ 例 鬱、統合失調症、不安障がい、対人恐怖、失敗を過度に恐れる、他責、白黒思考、被害妄想など
- ▶ お母さんのメンタルも不安定に
→ 過干渉や共依存、夫婦の不和、離婚リスク

※不登校、ひきこもりの初期に関わり、状態が悪くなるのを防いだり、家庭に積極的に介入し、早期解決を目指すのがご本人、家族、社会のためになる

長期に社会から離れてしまうと、学校や社会で得られる経験が5年、10年と簡単に失われてしまいます。僕も、当時、辛かったのですが、やっぱり、ひきこもりっていう期間は他の皆ちゃんと働いてたりだとか、早い方だったら、もう結婚して子どもがみたいな話もあって、そうなると、どんどんどんん気持ちが落ちてしまって、人によっては、もうがっつりした精神障がいって診断が出るようになったり、外に全く出られないというような、しんどい状況になってしまうというケースが多かったのです。実際、ここにも

例も出させて頂いたのですが、人とのコミュニケーションの中で、もう白黒、0か100かといった極端な思考やもうこの人は私のことを嫌ってるに違いないとか、捉え方が歪んでいきます。

不登校の場合、こころの風邪を重症化させないためには、早めに医療に繋がって、それで、もし何も問題なければそれでいいですし、ほとんどのケースが、何かしら心の問題を抱えてることが多いというデータも実際出てますので、そこは我々が見させて頂ければ、長期化を防げると考えております。特に、ひきこもりのお母さんとよく関わらせて頂くのですが、お母さん自体も、精神的にもしんどくなっています。

そういったときに、お母さん自身にも我々がしっかり入っていくところ、安心感を得て頂きます。ひきこもり期間が長引いてしまうとお母さん自身が焦って過干渉になったり、子どもと共依存となって、うちの子は私が守ってあげないと、他のところと繋がろうとしても、どうせうまくいかないと繋がりを切ってしまうと、長期ひきこもりの状態が続いてしまう負のループに入ってしまうケースもありました。なるべく早く繋がることで、お母さんのしんどさもケアできたらと考えております。

支援のステップですが、身体、体調面をしっかりと改善し、体力とメンタルをしっかりと回復して頂きます。訪問看護は週3回入ることができるので、当事者で、鬱状態が強く、なかなかもうやる気が出ない、元気が出ないという状態があるんです。

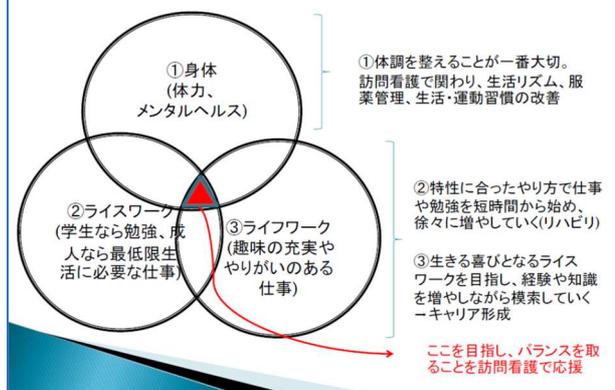
そんな方でも、正しい生活リズム習慣っていうのを作っていくっていうのはなかなか難しいので、週に2、3回、看護師が入って、「体調どう?」と声掛けをして、「ちゃんとできてるやん」「できてよかったよ」「すごいやん」という風に褒めてもらったりですとか、服薬も管理することによって、生活習慣をまず整えていくことをします。

その中で、だんだん信頼関係ができてくるので、その中で、いや親には言っていないけども実はこういうことがあってとか、こういうのがちょっと難しくて上手いかわなくてっていうところがポツポツ出てくるんですね。

それによって我々、支援者の方とも情報共有しながら、この状態だったら次ここがまず目標かなっていう形で、それが1つずつきちんとできるように、支援をさせて頂くというのをします。

そして、ライスワークはその方の特性に合っていて、嫌じゃない、無理じゃないっていう、できそうっていうところから一緒に探していきながら、まずそこで自分自身が1人で生きていけるだけのお金を最低限稼いでいくことを目標にします。

Gifted Creativeの社会復帰支援のステップ



就労前の準備が就労定着の9割を決める

①農業・運動療法で生活リズムを整え、体力をつくる

②訪問看護やシェアハウスでのコミュニケーション・自立訓練、自己・特性・障がい理解を深める

食事
運動
睡眠

農作業
や運動

基礎体力向上、生活リズム、メンタルを整えるに有効

・メンタルを崩すネガティブ思考や本人の特性(認知の偏り)は修正しないと繰り返してしまう
・他己評価や伴走支援で継続して取り組むことで成長し、乗り越えられる

③心理士による心理教育、カウンセリング、グループワークにより、課題の克服練習や自分と向き合う時間を定期的にする

県内外より110名の支援、9割を就労、社会復帰【2024年4月時点】

ライスワークを一生、ずっと続けていくのは結構しんどかったり、難しかったりもするので、ライフワークとしての趣味の充実なのか、それともちょっと、昔、本当はこういう仕事したかったけど、ひきこもりになってしまってできない、みたいなのところも、もう一度目指して頂く。そうやって、ライスワークとライフワークのバランスが取れている状態になると、仕事も継続しますし、頑張っていけば成長して新しいステップを踏み、進んでいくことができます。

最終的に、不登校、ひきこもりだった方をやっぱり納税する側に回って頂きたいと考えており、長く伴走させて頂くことによってそれが実現可能になっております。

実際この就労前の準備が、もう定着の9割を決めると思っております。

繰り返しになりますが、私自身も農業で回復してきたってところもございますので、自社でも農園があり、そこで、週1回作業したり、自然の中で体を動かすってところは、当事者の方にとってもリフレッシュになったり、当事者同士のコミュニケーションの練習の場にもなったりもしています。

訪問看護やシェアハウスの中で、畑中さんのような働いている先輩方とコミュニケーションを取ることによって自分と同じ障がいを持っている、特性を持っている方でもちゃんと働けるんやなっていうロールモデルが目の前にいることは、当事者の方にとっても勇気の得られるものだと感じています。その中で、我々も数多くの様子を見ることができるところもありますし、長い間その方のことを見ることができるので、ちょっとこういう特性あるんとか、こういうコミュニケーションの取り方が上司とのやりとりの中でもうまいかない原因になると分かるので、SSTの訓練をします。これは良くないなっていうところは、本人にも、言う方はしんどいのですが、しっかり伝え支援をさせて頂いています。もちろん心理士さんのお力も借りながら、心理教育やコミュニケーション練習もさせて頂いています。

今、現在で120名、9割の方を社会復帰に繋げております。

ここで、畑中さんを紹介させて頂きます。隣に座っている畑中さんに許可を取っています。

田辺高校を卒業して、専門学校へ行かれましたが、そこで病気を発症し、中退。その後14年間ひきこもり。

その間に色々B型作業所に繋がったのですが、上手いかず、龍神という山奥で、近場に通えるところがなく、長い間働けない状態でした。

手帳は、3級をお持ちで、統合失調症という診断が出ています。

2019年9月に、我々がテレワークによる障がい者雇用のセミナーをテレワーカーズ柏の施設長の倉持さんと一緒に開かせて頂き、そこで初めて出会うことができました。

現在は、日本で2番目の障がい者雇用に係る雇用率算定の特例の企業であるワークトモニスで働かれています。

田辺市龍神出身、34歳男性畑中さんの事例(本人掲載許可済)

- ▶ 田辺高校を卒業後、専門学校へ。病気を発症し中退。その後14年間ひきこもり状態
- ▶ 障がい者手帳3級、統合失調症
- ▶ 2019年9月にテレワークによる障がい者雇用セミナーで出会う
- ▶ 現在は日本で二番目の障害者雇用に係る雇用率算定の特例(LLP特例)企業ワークトモニス(名古屋)でテレワーク就労中
- ▶ ※ LLPIについてはこちら
- ▶ <https://with-d.com/>
- ▶ <https://work-tomonis.com/about/>

この算定とかこのLLPとかって、皆さんの中で聞いたことがある方いらっしゃいますでしょうか。なかなかいらっしゃらないですね。

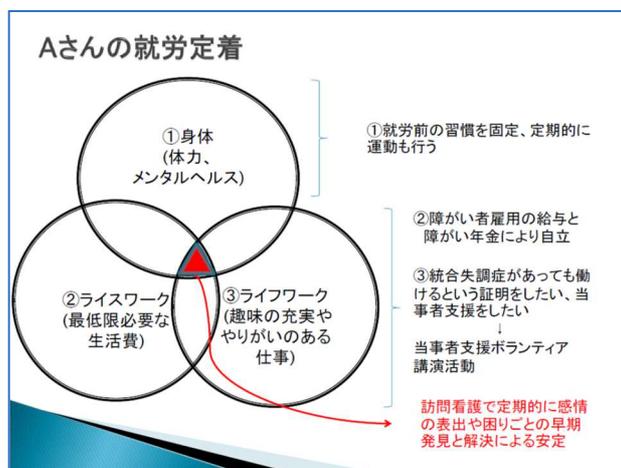
簡単に説明させて頂くと、基本的に大きな企業であれば、特例子会社という、そこで障がいのある人を雇用すると、そのグループ、本社も含めて、全部で算定できますよ、障がい者雇用やっていますよ、という仕組みは、皆さんご存じかと思います。その中小企業バージョンです。中小企業が、A社B社C社っていうのが、このLLPっていう有限事業組合を作ってその中に参画する。それによって、例えば 40 人社員がいる方ですと、1人雇用する義務がありますが、中小企業さんの半分が満たしてないのです。でも、大手企業は大体もう満たしつつあります。

今回、中小企業さんが障がい者雇用やっていないと、国もこれじゃ駄目だよってところで、そのLLPという箱を作ることによって、そこに参画している企業さん、その中で仕事を発注したりですとか、仕事の関係があるっていう状態を作っていれば、算定する。今回、このワークトモニスっていうところはLLPで、そこで今、畑中さんが働かれていますので、そこで今1カウントあります。その中で2人雇う義務があるが0人のA社、2人雇ってる B 社、これをトータルすると満たしていると見なす、そういう仕組みです。

中小企業さんもなかなか自社でいきなり障がい者雇用っていうのは難しいのですが、このように仕事を上手く発注したりですとか、業務の関係があったり、間にこのLLPってのがあることによって、どういう方が実際働かれていますのか、この方、一体何ができるのか、そういうのが見えているようになってくるので、こういうのを広げていけば、障がい者雇用がよりこの地方でも進めていけるんじゃないかと思っています。

※ LLPの詳細は、<https://with-d.com>

<https://work-tomonis.com/about/>



畑中さんの就労計画も同じようなステップを踏んでいます。

畑中さん、どうしてもこの龍神ですと人目があって、散歩とか運動習慣なかなかつけられなかったのですが、田辺市市街地の方にシェアハウス、当時あったんですが、そこだと全然知ってる人がいないってところで、しっかり散歩ができた。元々服薬管理は、ものすごくよかったってところもありまして、早期にいろんな仕事に繋がることができています。

そこからライフワークを目指し、こんな感じで、今は障がい者雇用の給与と障がい年金により完全に自立した状況にいます。

畑中さんのライフワークとしては、こういった形の講演に出たり、Twitterとかノートとかを、結構まめに更新して下さり、統合失調症があっても働けるよってところの啓発しています。訪問看護の方でも定期的に体調確認や、お困り事ないですかと、週1回訪問させて頂きながら、何か困ったときに、早めに見つけていくってことを一緒にやっています。

やっぱりなぜ仕事が続かなかったり、正社員になれないのかっていうところですが、僕もそうですけども、発達障がいであったり、グレーゾーン、あとは生育歴に課題があったりすると、正社員のように皆と同じ働き、基本業務がもう全てできる、Word、PowerPoint、Excelが全て使えますみたいな、そういうことが求められる仕事に向いてないことがあります。そのため自分の特性であったり、強みっていうのを活かせる働き方、そして弱みをきちんと助けてくれる支援者と繋がるっていうことであったり、その複数の職場でパラレルワールドをす

るって働き方をおすすめしています。

1個フルタイムで働くと、そこで何かしら人間関係のトラブルがあった瞬間に、もうその仕事辞めざるを得ないって状況になる可能性もあるので、逆に、ABCっていう形で働く先が3つぐらいあれば、1個、何かトラブルあっても、残りを続けながらもう1個、また増やせば良いよみたいな働き方をすれば、仕事が切れるってこともないですし、やはりどうしても仕事を辞めるとお金の不安があって、それで体調が悪くなる、みたいなこともあったりするので、こうやって仕事を分散することによって、働きやすいという方もいらっしゃるれば、やっぱり自分でフリーランス的な働き方をしたいという方もいます。

なぜ仕事が続かなかったり、正社員になれないのか？

- ▶ 発達障がいやグレーゾーンだと、会社員のようにみんなと同じ働き、基本業務がすべてできることが求められる仕事にそもそも向いていない場合がある
 - ▶ 自分の特性の強みを活かせる働き方、弱みを助けてくれる支援者、複数の職場でパラレルワークをしたり、フリーランス、起業、テレワークなど広い選択肢の中から選べる方が安定する
 - ▶ 自身の特性理解、苦手を助けてもらうスキルが身につけていないことで起こるストレスが多い
- 訪問看護で週1~3回の情報収集、分析を行い、訓練や、仕事のミスやコミュニケーションエラーとなる課題の解決スキルを就労前に訓練しておくことで定着率が上がる

でも、なかなか、フリーランス1本で食っていくのは難しいので、初めはライスワークとして、企業でちょっと勤めながら、そこで稼いだお金で、ちょっと自分が本来こういうイラストレーターなのか、テレワークの自営業で働きたいのかみたいな形でいろいろ模索して頂きながら最終的にそのバランスが取れてきて、完全に自分自身がフリーランスでいきますってところを目指していくところであれば、継続して働くことができます。

実際、ちょっと当事者の方の中でも法人を立ち上げる方もこれまで4名いらっしゃいます。その中で本当にすごいのが、月の売上 200 万を売り上げるような方も当事者の中にはいらっしゃるの、その人に合った働き方、生き方っていうのができるとすごく良いと思っています。

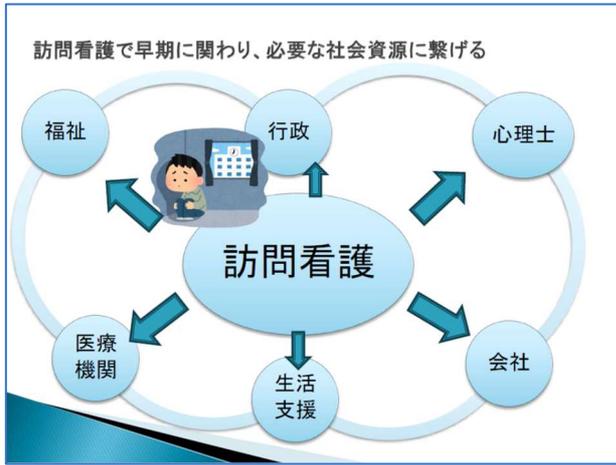
あとは学校で、なかなか自分自身の個性、特性であったり、障がいであったりというところを学ぶ機会っていうのが、なかなかなかったりします。

この中には、専門的な知識を持っている方もいらっしゃるかもしれませんが、セルフケアという概念については、実は意外と知られていないことが多いのではないかと思います。例えば、働きながら「ちょっと疲れたな」と感じたとき、土日をしっかり休めばメンタルが安定すると思いがちですが、実際には大きなプロジェクトを任せられたり、身近な人を亡くしたりすることで、自分を支えるものが一気に崩れることもあります。そうしたとき、誰でもメンタルヘルスに問題を抱える可能性があります。実際、日本では4人に1人が何らかのメンタルヘルスの問題を抱えるというデータもあります。

そういった状況を少しでも軽減するために、セルフケアの知識を深める機会を増やせば、当事者の方々もより元気に働けるのではないかと思います。私は、メンタルヘルスは人事だけの問題ではなく、もっと広い視野で考えるべきだと感じています。今後、そういった取り組みが進んでいくと良いと考えています。

また、なぜ上手くいかないのかを理解するためには、訪問看護を活用することで、1回~3回にわたってしっかりと状況を見守ることができます。その中で、セルフケアに必要な知識やスキルを身につけてもらえれば、もし何か問題が起きた場合でも、自分でケアできたり、看護師や職場の上司に早めに相談できるようになります。これができるようになると、長期間働き続けることができるのではないかと思います。

イメージとしては、こんな感じです。実際、畑中さんはこのような形で働いています。畑中さんは実は第2号ですが、最初の1人は、みなべに住んでいる方で商社で働いていたときに、畑中さんからパソコンの使い方を教えてもらった方です。その方は、テレワークを始めるまで、パソコンすら持っていませんでした。



畑中さんに、1ヶ月ほど教えてもらった後、パソコンの基本的な使い方を学び、「こんなふうにするんだよ」といったことを理解したそうです。

テレワーク自体は、実はそれほど難しくないとはいいます。むしろ、週5日働ける環境をしっかりと作っておくことが大切で、報告・連絡・相談といった基本的な社会的なルールを守ることさえできれば、上手くいくのではないかと思います。現在、こういった形で3名が訓練を行っています。

私の妻である看護師の晴菜は、もともと大学病院で勤務していました。しかしその後、退職して地元の訪問看護ステーションで働き始めました。その中で、不登校やひきこもりの方々と関わる機会があり、実際に回復される方が出てきたことが、この訪問看護ステーションを立ち上げる大きなきっかけとなりました。

訪問する看護師の紹介

峯上 晴菜

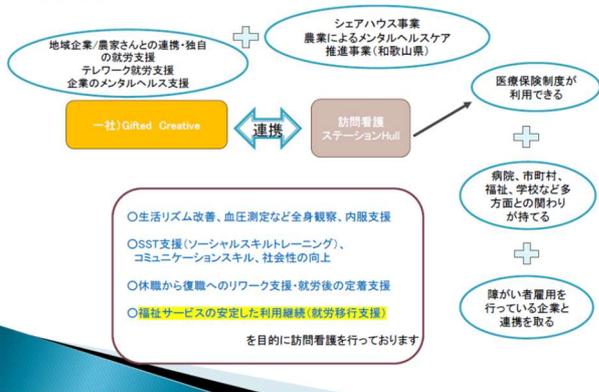
(みねうえ はるな)

- 2017 和歌山医大卒業後附属病院で胸部外科・救急科に配属
- 2022 和歌山県田辺市の訪問看護ステーションに就職
- 2023 管理者就任
- 2024.5.1～ 訪問看護ステーションHullを開設

超急性期から回復期、内科、終末期等を経験

精神疾患・不登校支援を経験し、ひとりひとりの障がいや、それに伴う柔軟な支援が必要と気づきました。発達障がいや精神疾患などの理解を深め、その人らしい生き方ができるような伴走者になりたいと思い、社会復帰や就労に特化した訪問看護ステーションを作りました。

体制



このステーションは、今年5月から本格的に運営を始めました。一人ひとり抱える困りごとは異なるため、丁寧に向き合い、しっかりと話を伺うことを大切にしています。そして、それぞれの状況に応じた知識や医療のサポートを提供し、必要な支援につなげることが重要だと考えています。このような理念のもと、活動を進めています。体制としてはこんな形でやらせて頂いています。

基本的に、先ほどお伝えした内容とも重なる部分がありますが、特に福祉サービスの安定

した利用継続に関しては事業所とも連携を図りながら、上手く取り組んでいけるのではないかと考えています。

また、「テレワーカーズ 柏とは何だろう?」と気になる方もいらっしゃるかと思いますので、少し詳しくご説明します。

利用者さんの特徴として、社会経験が乏しいことや、対人業務への不安、視線恐怖などがあり、リアルな職場で働くことが難しい方が多くいらっしゃいます。こうした方々に寄り添いながら支援を行っています。発達障がいもそうですし、精神障がい、うつであったりですとか、パニック障がいの方であったりですとか、どうしてもそこ

テレワーカーズ 柏と訪問看護利用者の特徴 (利用開始時)

- ❖ 社会人経験がない(不登校・ひきこもり経験、障がいなどによって通勤が困難、対人恐怖、視線恐怖がある等)
- ❖ いきなり社会に出るのが怖い(社会人スキルが不足)
- ❖ 発達障がい特有の困難がある(事務仕事で覚えにくい、人の気持ちが分かりにくい、こだわりが強い、忘れることが多い等)
- ❖ 昼夜逆転しており生活リズム不良・内服管理不良
- ❖ 部屋が散らかっていたり清潔動作や食事も十分に取れていない

「働くことへの恐怖心は誰よりも大きい状態」

に通うことが難しいという方、在宅だともしかして働ける可能性があるかっていう方、3名に参加して頂いています。

訪問看護ができること

「信頼関係の構築(心理的安全性の確保)」

最初から本人の生きづらさを話してくれる訳ではない
まずは信頼関係を作るために本人の体調に合わせて、できるだけ毎週関わりを作るようにする

訪問看護は基本的に週3回まで利用できる

→信頼関係が出来ていない状態でのアドバイスは逆効果になることが多く、注意が必要

正しいことよりも、本人が何故できないのか、その理由を傾聴し、しっかりと理解した上での関わりが重要

訪問看護では、信頼関係の構築を何より大切にしており、その点をしっかりと意識しながら関わらせていただいています。週3回の訪問を通じて、利用者の方と丁寧に関係を築き、その中で「ここが少し課題かもしれませんね」という形でアドバイスをしています。

また、どうしても周囲の方が「なぜこれができないのか」という正論で指摘してしまう場面もあるかと思えます。ですが、私たちは「本人がなぜできないのか」という背景

にしっかりと目を向けることを重視しています。看護師はその点において非常に得意で、傾聴を通じて「こういう理由で難しいのだ」ということを丁寧に理解します。そして、「では、こういう方法ならどうでしょう?」とハードルを低くした提案を行い、小さな成功を積み重ねてもらっています。その結果、できたことに対してはしっかりと褒め、「すごいですね!」とポジティブなフィードバックを大切にしています。

そうすると、本人も嬉しくなり、少しずつ今までできなかったことができるようになってきます。生活リズムが整い、散歩や食事といった日常生活の中で改善が見られることが多いです。

また、栄養指導を行うことで体調が良くなるケースも多々あります。例えば、「3食しっかり食べましょう」とアドバイスしたり、「お風呂に入るのは大切ですよ」と促したりするだけで、親御さんに言われるよりも効果がある場合があります。看護師が訪問することで、「来るから頑張ろう」と思い、お風呂に入るようになる方もいらっしゃいます。こういった小さなきっかけが、生活全体の改善につながるのです。

訪問看護ができること

「生活リズムを整える」

不眠・昼夜逆転など生活リズムを整える(体調に合わせて朝の訪問にしてみる、内服の調整も考慮する)

食事内容(3食食べるリズムを作る)

清潔動作はできているか(自宅の整理整頓、精神疾患があると入浴ができていないことが多い)

内服確認(必要時内服カレンダーの利用、服薬理由の理解の有無の確認)

適宜運動(散歩等)に取り組んだり、訪問時に一緒に運動を取り入れてみる(体力の向上)

本人の体調を支援者側がしっかりとアセスメントする(頑張りさせ過ぎない。休息の取り方の助言等)

生活面が整い体力が向上してくると自信がついてきて、自分で生活できるようになりたい気持ちも表出してくるようになる

さらに、服薬管理が難しい ADHD の方には服薬カレンダーを作成したり、片付けが苦手な方には整理しやすい環境づくりのアドバイスをしたりします。掃除そのものを代行することはありませんが、声を掛けることで本人が行動に移せるよう支援しています。

また、極端に頑張りすぎて体調を崩してしまう方も多くいらっしゃいます。そのため、毎日の訪問時に体調やメンタル状態を点数化し、「今日はこのくらいの体調だから、無理のない範囲で頑張ろう」と、その日の状態に応じて目標を設定します。特に調子が悪い日には、完全に休むよりも軽い負荷の訓練や仕事を提案し、継続的に取り組めるよう調整しています。このようなサポートを通じて、無理なく長く働けるよう声をかけています。

こうした生活面が整ってくると、脳の状態も回復してきます。その結果、これまで「何も考えられない」「怖くて何もできない」と感じていた方が、「体調も良くなってきたし、働けるかもしれない」と前向きな気持ちになることがあります。私たちは、そうした変化を全力で応援し、伴走する形でサポートしています。

訪問看護ができること

「障がい理解・自己理解

発達特性、季節性の変化、過集中、感覚の鈍感・敏感、、、
個人によって特性の色の濃さはそれぞれ

まずは生活リズムが整っているか日中活動ができるか
月単位で継続できるようになっても疲労感がすくない、
急な体調不良もなく寝込まなくなってきたなど

→週5日活動できそうな状態で就労移行支援に挑戦するタイ
ミング

社会復帰したい＝就労移行支援サービスの利用
は早すぎることもある
体調を崩さず日常生活を送れるようになった段階で
サービス利用開始するとスキル向上が早く、自信に繋がる

訪問看護の中で、私たちの強みと言える点の一つは、障がいへの理解や自己理解を深めるサポートができることです。例えば、季節の変化による体調の変化や、過集中の傾向で休憩を取らずに2時間以上作業を続けてしまうといったことは、家庭の中で見守っていないと気づきにくい場合があります。私たちはそうした日常の様子をしっかりと観察し、その方に合った「取扱説明書」を一緒に作り上げていく支援を行っています。

実際、週5日活動できる状態になった時点で、就労移行支援やB型・A型事業所を利用するタイミングだと私たちは考えています。ただし、特に就労移行支援の場合、基本的に2年間しか利用できないため、体調が整っていない状態で参加してしまうと、訓練自体が負担になり、やる気を失ってしまうことがあります。こうした事態を防ぐためにも、ある程度体調が整った段階で就労支援に繋げることを心がけています。

例えば、働きたいという気持ちが高まったタイミングで、何かサポートをしたいと思うものですが、その段階ではまだ体調が回復していないことが多いです。ちょっとした変化で体調を崩してしまい、「自分はやっぱりダメだ」と感じてしまうケースも少なくありません。そういったことが起こらないように、体調が崩れた場合でも焦らず、「まだ無理だよ」と見守ることが大切です。支援者間でも、本人の状況をしっかりと把握し、タイミングを見極めて支援を行うようにしています。

基本的に、看護師が就労支援を行うことに疑問を持たれる方もいらっしゃるかもしれませんが、私が考えるに、看護師はとても気がつく職業であり、その能力は国家資格を持つだけの力を持っています。これまで私たちが取り組んできたことを、妻や他の看護スタッフにしっかりと共有し、その中で情報を集めながら、一緒に考えて支援を行っています。このようにして、チーム全体で支援の質を高めています。

ここに書いてある内容を全てお話しする

就労支援をおこなう上で看護師が必要なスキル

☆利用者がこれから社会に出て働くこと看護師がしっかりイメージする

→報告、連絡、相談、きちんとメモを取るなど基本的なことOK

課題の提唱も必要で、本人にとっては苦手な点にも向き合う必要がある

苦手＝障がいがだからと思考停止するのではなく、どうすれば出来るようになるのか模索、挑戦し、出来る頻度を向上させることが必要

一時には利用者の能力を信じて待つ

生活リズムや服薬がきちんと出来ていないと、脳がきちんと働かず、集中力が切れたり、言われたことを忘れてしまったりする場合がありますため、障がい特性との見極めが重要

看護師や支援側が本人の強みと弱みをバランスよく理解し、企業で強みを発揮、戦力となるよう伴走し、自身の障がいについてはきちんと職場に調整してもらるように客観的な情報を伝えることが大切

訪問看護+テレワーク就労移行支援の可能性

『日々の体調管理(食事、内服管理、睡眠、精神的フォロー)を訪問看護が担う

→就労移行支援事業所の訓練にしっかり集中できる

『在宅勤務で遠隔のためテレワークが利用者を直接観察が難しい

→訪問看護によって直接的なサポートが可能

『医療者として、障がいの理解を利用者と一緒に深め、「社会で働く」ためのスキルを丁寧に振り返ることができる

→障がい・自己理解に繋がり、強みや弱みの対策を取ることができる



と時間が足りなくなってしまうので省略しますが、看護師として、社会に出て働くという部分をしっかりと支援しています。

実際、テレワークと訪問看護は非常に相性が良いと感じています。テレワークで企業に雇用される際、体調が悪くなったり何かトラブルがあったときにどうするかが不安になることがありますが、私たちが定期的に訪問していることで、家庭環境や体調をしっかりと把握できる点が大きな強みです。

また、就労訓練もテレワークで行われて

いるので、もし参加しない場合は私たちが確認の連絡を入れることができます。例えば、

「寝坊しました」というようなこともあります。私たちが連絡することで、その方が気づいて行動することもあります。緊急時には、必要であれば救急車を呼ぶなど、医療的なケアを提供できる点も、訪問看護としての大きな強みだと考えています。

最後に、利用者の「働きたい」という気持ちを尊重しながら、希望と目標と一緒に突き合わせていく過程を大切に、共に歩んでいくサポートをしています。

実際、就職先の企業では、なぜ急に体調が悪くなったのか理解しづらいこともあります。障がい者雇用で頑張っていることが分からないこともあります。当事者の方が企業の上司に自分の状態を伝えるのはとても怖いことです。どうしても「馴れ馴れしいと思われるかもしれない」と

感じ、言いづらいこともあります。ですが、私たちは長期間関わっているため、仕事の中で困っていることを聞くことができ、その情報を企業に伝えることも可能です。場合によっては、企業に対して「この仕事がしんどいので、別の仕事があれば」と相談することもあります。

また、企業に情報提供することによって、例えば過集中の傾向がある場合はタイマーを使って防げることや、季節的な波によって訓練が難しくなる時期があることを伝え、仕事内容を調整することもできます。例えば、「この時期にはこの仕事を減らして、別の簡単な作業をお願いできませんか？」という形での調整を行っています。

これにより、双極性障がいの方でも、3年間テレワークで継続して働き続けることができます。もちろん休むこともありますが、関わりが長くなることで、少し体調を崩しても、数日で回復することができるようになっていきます。

課題と今後

訪問するには精神科の医師の指示書が必要
→医療へつなぐ必要がある

和歌山で4番目の国家戦略特区の枠組みを活用し、有限責任事業組合(LLP)として算定特例の認定を目指したい

そうすることで様々な働きづらさがある方々の雇用と、中小企業が抱える人手不足の課題を同時に解消できるようになり、若者が活躍できる仕組みを和歌山に構築できる

なります。名古屋で特例特区が進行しているため、全国的に関係なく、この特区の取り組みを活用し、別の企業とも仕事を切り出すことが可能となりました。

もし、この中で40人以上の企業を経営されている方、もしくはそのような経営者を知っている方がいれば、ぜひ繋いでいただけたら嬉しいです。

今後の目標として、畑中さんの後を継ぐ形で2人目、3人目といった方々が和歌山の「ワークトモニス」で働き、その企業での仕事

さいごに

- 利用者の働きたい意思を尊重し、希望と目標と一緒にすり合わせ、スモールステップで伴走する
- 定期的な関わりと支援者からの承認で利用者の自信に繋がったり、やりがいになる
- 就労移行支援は2年しか使えないため、その前段階で生活スキルの向上を地域の医療者が支えていくことが大切
- 就職先の企業も看護師が支援している状態は大きな安心に繋がるため、必要時面談や情報連携を行えるとなお良い
- 就職後も身体、精神面の支援の継続が、安定した就労継続に繋がっていく
- 医療と福祉は一見異なる分野に見えるかも知れないが、一人の人の伴走を行っているという点では同じである
- 医療者が福祉の知識と就労に必要とされるスキルを知っていることは利用者にとって心強い味方になれる

課題と今後の展望についてですが、1つ課題となるのは精神科の医師からの指示書が必要である点です。特にご家族は「うちの子は病気じゃない」となると、なかなか難しい状況があるのが現実です。

以前、資料を作成した際にはまだ参加していませんでしたが、現在、畑中さんが働いている「ワークトモニス」には Gifted Creative も参画することが決まりました。これにより、今後40人以上規模の中小企業と連携して、仕事の切り出しができるように

算定特例とは、複数の中小企業がグループとなり、協働して障がい者を雇用する新しい仕組み

- 障がい者雇用を増やしていきたい気持ちを持った中小企業と障がい福祉団体(Gifted)が、企業の垣根をこえて参加する有限責任事業組合(LLP)
- 算定特例制度を活用し、組合に参加する企業の障がい者実雇用率を通算し組合全体で法定雇用を達成可能
- 参画ノウハウを蓄積することで、業務効率化が図れたり、助成金を活用することで、さらに多くの雇用作りが可能に

を切り出していただくことを考えています。最終的には、この地域で障がい者雇用を増やしていきたいと考えており、障がいのある方々でも企業で戦力として活躍できるような環境を作り上げていきたいと思っています。

引き続き、訪問看護を通じてサポートを行いながら、企業と連携し、障がい者の雇用の可能性を広げていけるよう努めていきます。
ご清聴ありがとうございました。

質疑応答

Q 110 名の方に対して、9割が就職、社会復帰。この就労先と就労された方の平均年齢とか、ちょっと教えていただけたらなと思います。

A データとしてはまだ正確に計算していませんが、年齢層としては20代中盤～30代中盤の方が最も多いと感じています。社会復帰に関しては、実際に学校に通えるようになったり、就労に関しては地元の中小企業や、私たちが遠隔で伴走している地域の企業に就職される方が多いです。テレワークでの就労に関しては、先ほどお伝えした阪和興業、ワークトモニス、そしてテレワーカーズ柏が主な就労移行先となります。これらの先に約35社ほどの企業と連携しています。倉持さんはもともと福祉業界の出身ではなく、企業での障がい者雇用を推進してきた経験を持つ方です。そのため、企業に既にある業務を模擬訓練の内容に組み込む形で、実際の仕事に近い形で訓練を行っています。こういった取り組みを通じて、訓練を受けた方々がそのまま企業で働くケースも増えています。

Q 県内の方、どれぐらいの人数おられるんですね。

A ちょっとそこをちゃんと計算はできていない。
20数人くらい、30人はいってない。県外から来る方が多くいらっしゃる。

Q 2つ質問させて頂きたいと思います。

1つ目は、一番最初のプロフィールの紹介で、昼夜逆転して、毎日が死にたいという状況やったところから、改善していった。一番最初の取っかかり、どういったことが改善へのきっかけ、例えば、お家の中でも、何かきっかけがあるんやったら教えて頂きたいってのが1つ。

もう1つは、訪問看護ができることということの中で、信頼関係ができてない状態でのアドバイスは逆効果になることが多くて、注意が必要ですって、考えております。というのは、具体的に、どういう状態の時に、どういうアドバイスをしたら、どんな反応が出てきた、そのときは、どうすればよかったんだっていうふうなところ、お聞かせいただけたらありがたいと思います。

A 私の1つのきっかけは、母が本当に心配症で、神経質なところが強かったことです。何かを頑張ろうとするときに、すぐに口を出してきたり、家にいる間も「どうするん？」とストレートに聞かれることが多く、正直、私はどうしていいかわからない部分がありました。これが私が1年間引きこもる原因になったのかもしれない。しかし、後から聞いた話では、父が「自分たちの子どもなんだから、信じて待ってあげよう」と母に言ってくれ、その言葉で少し落ち着く時間ができました。それがあったおかげで、自分自身と向き合う時間を持つようになり、少しずつ回復への道を歩み始めました。

最初は本当に洪々だったのですが、農業を始めることにしました。これによって体調が徐々に回復してきた実感があり、良かったと思っています。ただ、私は本当に運が良かったのだと思います。うつ状態というのは脳が炎症を起こしている状態で、本人の意思でどうにかできるものではないと思っています。だからこそ、訪問看護のように定期的に関わり、しかも「やいやいや言われぬ」環境が重要だと感じます。

親というのは、どうしても感情的になりがちです。身内だからこそ、怠けているように見

えてしまったり、つい余計なことを言ってしまうたりします。私はどちらが悪いというわけではなく、仕方ないことだと思います。そんな時こそ、専門家の支援が必要だと実感しています。訪問看護でしっかり寄り添ってくれる存在があれば、本人も安心して回復に向かうことができると感じています。

私自身が「生活をしっかりしなければならぬ」と思っている、それが体調や栄養状態に左右されることがあります。例えば、不登校の思春期の女の子であれば、鉄分不足が原因で朝起きるのが辛かったり、気分の波が激しくなったりすることがあります。実際に血液検査を行い、鉄分の数値が低いことが分かり、鉄剤を処方されたことで、行き渋りが解消されたケースもあります。

医療的な部分も大きな役割を果たします。見えない部分が多いため、専門的なケアを受けることが重要です。医療的なサポートを受けつつ、生活リズムを整え、少しずつ自分でできることが増えていくのだと思います。「これをしなければならぬ」と言われることが逆効果になることもあります。親がその正論を押し付けてしまうと、本人が困っているのにさらに孤立してしまうことがあります。

そのため、専門的な人にサポートをお願いし、その人からのアドバイスを受ける方が、回復への近道だと思います。私自身もそれが最も良かったと感じています。

《畑中さんに、今どのような感じでテレワークされてるか？》

現在、週4日勤務で週休3日、時短勤務をしています。自分のパソコンを使い、リモートで会社のパソコンに接続して仕事をしています。主な業務は給与計算で、その他にも台帳のデータコピーなどもあり、忙しい日々を送っています。テレワークをしてみて、実際に「テレワークは難しくない」と感じています。信頼関係がしっかり築けていれば、上司とのコミュニケーションも全く苦になりません。日々しっかり業務をこなしていれば、少し面倒をかけても、上司が親切に教えてくれるので、楽しく仕事を進められています。

Q 今日の説明の中でも、介入の必要性ってやっぱりすごく大事っていうふうにおっしゃってたじゃないですか。意外と、この介入によって僕らからしてみたら、どのタイミングが一番いいのかとか、支援拒否じゃないですけど、ご家庭によっては、ちょっとあんまり変わってくれるなみたいなのところもあったりするかなとは思っています。

やっぱり支援する上でタイミング、すべきタイミングに介入することがすごい大事だと思うんですけど、そのタイミングをどういうふうに見極めてるとか、介入するときはこんなふうになってるっていうふうなところ、ちょっと具体的にちょっと幾つか教えていただけたらと思う。

A 私は、千葉にある「ニュースタート」という団体の代表の方が話していたことが印象に残っています。その方は、ひきこもりが1年以上続くと、家族だけでは解決できなくなると言っていました。私自身も、ひきこもりが1年を超えると、家族だけでどうにかするのは限界だと感じています。

一番大事なのは、本人が「変わりたい」と思うことです。畑中さんもそうでしたが、最初は親御さんが「うちの子を見てくれ」とお願いするケースもありますが、不登校の場合ではそれで上手くいくことが多いです。

しかし、ひきこもりの場合、本人が変わりたいという気持ちがないと、アウトリーチも逆にストレスになってしまうことがあります。自分から福祉に繋がったり、他のオプションを試すのはとても難しいと感じることもあります。ただ、今はSNSやTwitterなどで情報を探ることができ、私たちのことを見つけて連絡してくれる方も増えています。そこで、Zoomで話をしてから1ヶ月、2ヶ月、3ヶ月、場合によっては半年以上オンラインで伴走していくこともあります。やはり、本人が「変わりたい」という気持ちを持つタイミングが一番大事だと感

じています。そして、本人がいろいろな選択肢から自分に合った方法を選べることが重要だと思えます。

ただし、無理に支援に繋げるのではなく、見学に来た際にそのまま帰るケースもあります。また体調が戻ることはありますが、働く意欲が湧かないこともあります。私たちができることとできないことの間にはギャップがあることは確かです。

年齢層としては、上は40歳くらいの方まで対応していますが、私自身が35歳で、年齢差が大きくなると、私の言葉が届きにくいこともあります。これが私たちの限界とも言える課題です。

もし私たちと何かしら連携していただけることがあれば、オープンに受け入れますので、遠慮なくご相談いただければと思います。今日はありがとうございました。



IV. 參考資料



家から **子ども** が
でられない
家族 でかかえこまないで
ほっこり しませんか

ほっこり会
(ひきこもり家族の会)





認定 NPO 法人ハートツリーは
生きづらさを抱える人たちの未来への一歩を応援しています。

生きづらさや課題を抱える人の相談や、安心して過ごせる「居場所」づくりから、
就労支援まで、社会へと飛び立っていくための緩やかな歩みを私たちは全力でサポートします。

ひきこもりサポート事業

「外へ一歩踏み出したい」「誰かと話をしたい」
そんなときに気軽に立ち寄れる『居場所』がここにあります。
相談・訪問支援・社会体験活動・レクリエーションなどを行っています。



【ご利用日時】月～金曜 /9:00～18:00
(居場所は 13:00～17:00 まで) (土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み)
〒646-0028 和歌山県田辺市高雄一丁目 3 番 27 号
【TEL・FAX】0739-33-7850 【E-mail】info@heart-tree.org



【ご利用日時】月～金曜 /9:00～18:00
(居場所は 13:00～17:00 まで) (土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み)
〒647-0015 新宮市千穂 2 丁目 5-20
【TEL・FAX】0735-22-5570 【E-mail】platz@heart-tree.org

学習支援事業

ひとり親家庭の子どもや不登校生の学力向上と、様々な課題に寄り添います。



田辺市子どもの学習支援事業
「ひなた塾」
■小学生(4年生～)、
中学生、高校生(定時制・通信制)
【時間】学年によって時間が異なります
【受講料】無料



子ども食堂
「ひなた食堂」
■月 1 回 第 4 火曜日
■ひなた塾受講生
【時間】18:00～
【料金】1 回 100 円



認定
NPO法人 ハートツリー

Heart-tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006



認定特定非営利活動法人ハートツリー
【住所】和歌山県田辺市高雄一丁目 3 番 27 号
【TEL・FAX】0739-33-7850 【E-mail】info@heart-tree.org
【HP】https://heart-tree.org



就労準備支援事業

和歌山県・田辺市就労準備支援事業

認定 NPO 法人ハートツリー

heart work

ハートワーク

利用
無料

ハートワーク（就労準備支援事業）で

「働く」ための「準備」を 始めてみませんか？

認定 NPO 法人ハートツリーでは、

働きたいけど何から始めたらいいのかわからない方や様々な不安を抱えている方のために

「働く」ための準備の場を提供しています。

ご自身の課題や困りごとなど1つ1つクリアしながら私たちと一緒に取り組んでいきませんか？

まずはご相談ください。

「長期間働いていない」「コミュニケーションに自信がない」
「働く自信がない」「働くのが怖い」
など、働くことに悩みを抱える方
「働きたいけれど生活のリズムが崩れている」
「働きたいけれど体調に不安がある」
など、日常的な不安や悩みを抱えている方



「働く」ことの自信へと繋げる訓練の「場」

ハートツリー菓子工房

〒646-0028 田辺市高雄一丁目 23 番 1 号

田辺市民総合センター北館

【定休日】土曜・日曜・祝日【TEL・FAX】0739-33-7850



認定
NPO法人 ハートツリー

Heart tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006



認定特定非営利活動法人ハートツリー

【住所】和歌山県田辺市高雄一丁目 3 番 27 号

【TEL・FAX】0739-33-7850 【E-mail】info@heart-tree.org

【HP】https://heart-tree.org





南紀若者サポートステーション



(厚生労働省受託事業)

「就労」に向けたそれぞれのステップアップを応援します。



15歳から49歳までの若者への就労支援
「働きたいけど働く自信がない若者への支援」
「働いていない期間が長いので就職できるか心配」
「どんな仕事が自分に合っているのかわからない」
「対人関係が苦手な就職活動が辛い」など
職業的な自立のためのご相談を受け付けています。
相談の他にも、就職に役立つセミナーなどを開催しております。



【ご利用日時】 月～金曜 /10:00～18:00 (土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み)
〒646-0028 田辺市高雄一丁目23番1号 田辺市民総合センター北館
【TEL】 0739-25-2111 【FAX】 0739-25-0085
【E-mail】 nanki-saposute@ec2.technowave.ne.jp
【HP】 <https://www.nanki-saposute.jp>



串本サテライト
【ご利用日時】 水・木・金 /13:00～16:00 (土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み)
〒649-4125 東牟婁郡串本町姫27 (旧) 養春小学校2階 5・6年生教室
【TEL】 0735-67-7172 【FAX】 0735-67-7173



新宮サテライト
【ご利用日時】 水・金曜 /11:00～16:00 (土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み)
〒647-0015 新宮市千穂2丁目5-20
【TEL】 0735-22-5580 【FAX】 0735-22-5570
【E-mail】 nanki-saposute@ec2.technowave.ne.jp



認定
NPO法人 ハートツリー

Heart-tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006



認定特定非営利活動法人ハートツリー
【住所】和歌山県田辺市高雄一丁目3番27号
【TEL・FAX】0739-33-7850 【E-mail】info@heart-tree.org
【HP】<https://heart-tree.org>



若者サポートステーション WithYou 南紀



サポステ 若者サポートステーション WithYou 南紀

ご利用日時: 月~金曜/10:00~18:00
(土・日・祝日・夏期・年末年始はお休み)

〒646-0028 和歌山県田辺市高雄一丁目23番1号
田辺市民総合センター北館

TEL.0739-25-2111
FAX.0739-25-0085

【Eメール】nanki-saposute@ec2.technowave.ne.jp
【ホームページ】http://www.nanki-saposute.jp/
【携帯サイト】http://www.nanki-saposute.jp/ktai/



携帯サイトへアクセス!

南紀をくるとサポート!

若者サポート ステーション WithYou 南紀

悩みや不安を抱えている
15歳~39歳までの若者をサポートします。

利用料無料



予約制 相談は予約制になりますので、
お問い合わせください

サポステ 新宮サテライト

ご利用日時: 第2・第4水曜日 11:00~16:00

〒647-0015 和歌山県新宮市千穂2丁目5-20

TEL.0735-22-5580 FAX.0735-22-5570

【Eメール】shingu@nanki-saposute.jp



予約制 相談は予約制になりますので、
お問い合わせください

サポステ 串本サテライト

ご利用日時: 火曜日・木曜日 13:00~16:00

〒649-4125 東牟婁郡串本町姫27(旧)養春小学校 2階 5・6年生教室

TEL.0735-67-7172 FAX.0735-67-7173



認定
NPO法人 ハートツリー

Heart-tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006

認定特定非営利活動法人ハートツリー

【住所】和歌山県田辺市高雄一丁目3番27号

【TEL・FAX】0739-33-7850 【E-mail】info@heart-tree.org

【HP】https://heart-tree.org



若者サポートステーション With You は



そんなあなたの **はじめての一步** を応援します！

若者サポートステーションWithYou南紀とは？



県内3カ所の「若者サポートステーション」(働くことに不安のある若者の就業的自立を支援する施設)に和歌山県若者総合相談WithYouを併設し、「若者サポートステーションWith You」として、一体的に支援を展開しています。おおむね15歳から39歳までの若者が抱える様々な悩みや問題について支援機関と連携しながら対応しています。

サポートの流れ



★その他の相談として…公認心理士(臨床心理士)によるこころの相談(完全予約制)

好評！
**出張
サテライト相談**
串本・新宮サテライトで
出張相談を行っています。
詳しくはお問い合わせ
下さい。



安心のネットワークで応援します！

若者サポートステーション WithYou 南紀は、各関係支援機関と緊密なネットワークを構築していますので、安心して継続的・発展的なサポートを受けることができます。

さあ！まずは相談してみませんか！
ご家族からのご相談も、もちろんお受け致します。



認定
NPO法人 ハートツリー

Heart-tree is a Wakayama-based non-profit organization established in 2006

認定特定非営利活動法人ハートツリー
【住所】和歌山県田辺市高雄一丁目3番27号
【TEL・FAX】0739-33-7850 【E-mail】info@heart-tree.org
【HP】https://heart-tree.org



NPO法人かたつむりの会

設立趣旨

「まちづくり」や「環境保護」の問題を障害を持った人や社会に出ることに支援が必要な人たちの就労、生活、発達支援につなげて取り組んでいきたいと考え、この法人の設立に至りました。

問題を個々に捉えるのではなく関連した問題、課題として捉え、活動していくことで、関わった全ての人や地域社会が安全で豊かなものになっていくことを願います。

まったく微力ではありますが、出来る所から少しずつ取り組んでいければと思っています。

沿革

2007年度
任意団体かたつむりの会として、社会生活を送る上で支援を求める人たちと共に活動を開始。
2008年2月29日
NPO法人かたつむりの会、設立
2009年2月
「町家カフェ上屋敷二丁目」をオープン。
2009年8月
障害者就労継続支援A型事業所として、県の指定を受ける。
2011年4月
町家カフェ多機能型として、障害者就労移行支援事業所「ワークサポートいこう」を銀座通りに開所。一般就労に向けて、二年間の支援プログラムを実施する。
2012年9月
町家カフェ2号店として、元中部公民館を改修し「ララ・ロカレ」オープン。
2013年4月
「ワークサポートいこう」を障害者就労継続支援B型事業所に変更。
2014年8月
指定特定相談支援事業所「町家カフェ上屋敷二丁目」を開所。
2016年11月
法人本部・指定特定相談支援事業所・就労継続支援B型事業所「ワークサポートいこう」を移転。
2019年4月
「町家カフェ上屋敷二丁目」を障害者就労継続支援B型事業所に変更。

町家カフェ上屋敷二丁目 (障害者就労継続支援B型事業所)



古民家を改修したカフェです。ランチや手作り石窯で焼くピザが好評です。



RaRaLocale (障害者就労継続支援A型事業所)

パスタとパンのお店です。レトロな建物なのでライブなどのイベントも開かれます。週20時間以上働ける人は雇用保険など社会保険に加入します。

「ララロカレ」イタリア語で「地元の」という意味です。



ワークサポートいこう (障害者就労継続支援B型事業所)



より広い層の利用者さんに通っていただけるよう施設等を整備し、平成28年11月に移転しました。働くことの土台作りを目指すとともに少しずつ工賃も得ていきます。



田辺市上屋敷2-6-31

営業時間 9:00~14:00
(日曜・月曜定休日)

TEL 0739-20-5595

田辺市上屋敷2-6-7

営業時間 9:00~17:00
(火曜・金曜定休日)

TEL 0739-34-2146

田辺市上屋敷1-7-28

開所時間 月~金 9:30~16:00
(取組により曜日や時間帯変更あり)

TEL 0739-25-3888

田辺市「ひきこもり」検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 思春期・青年期にある者(以下「青少年」という。)にみられる「ひきこもり」の問題について、関係機関が相互に連携して一体となって取り組むことを目的として、田辺市「ひきこもり」検討委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(検討事項)

第2条 委員会は、前条に規定する目的を達成するため、次に掲げる事項について検討等を行う。

- (1) 「ひきこもり」の状態にある青少年についての支援活動に関すること。
- (2) 前号に規定する青少年に関する問題点等について検討すること。
- (3) 「ひきこもり」の予防活動に関すること。
- (4) 「ひきこもり」に関する研修や研究会に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、委員会の目的達成のために必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員42名以内で組織する。

- 2 委員は、学識経験者、民間支援団体、医療・保健・福祉・教育関係機関、市職員等のうち、市長が委嘱し、又は任命する。
- 3 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の在任期間とする

(委員会)

第4条 委員会に委員長及び副委員長2名を置き、委員の互選によりこれを定める。

- 2 委員長は、会務を総理する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員会の委員の代表による小委員会を設置し、定期的に会議を開き、その結果は委員会へ報告する。
- 3 委員会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の意見又は説明を聴くため、その者に委員会への出席又は文書の提出を求めることができる。

(事務局)

第6条 委員会の事務局は、保健福祉部健康増進課に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成17年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成 25 年4月1日から施行する。

【委員構成】

	選出区分	所属団体・職名等	
小委員	1	福祉関係団体・機関 社会福祉法人 やおき福祉会	
	2	学識経験者 臨床心理士/公認心理師	
	3	民間支援団体 認定NPO法人 ハートツリー ひなたの森	
	4	学識経験者 学識経験者	
	5	民間支援団体 認定NPO法人 ハートツリー 若者サポートステーション With You 南紀	
	6	福祉関係団体・機関 社会福祉法人 ふたば福祉会	
	7	福祉関係団体・機関 西牟婁圏域障害児・者相談センター にじのわ	
	8	福祉関係団体・機関 西牟婁圏域障害児・者相談センター にじのわ	
	9	和歌山県行政 田辺保健所	
	10	田辺市役所	教育委員会 学校教育課
	11		教育委員会 生涯学習課
	12		やすらぎ対策課(障害福祉室)
	13		福祉課
	14		健康増進課
15	青年会議所 (一般社団法人)白浜・田辺青年会議所		
16	福祉関係団体・機関 NPO法人 かたつむりの会		
17	和歌山県行政 紀南児童相談所		
18	医療関係者・団体・機関 精神科医師		
19	医療関係者・団体・機関 紀南こころの医療センター(臨床心理士/公認心理師)		
20	教育関係機関 田辺市教育研究所		
21	教育関係機関 田辺市養護教諭研究会		
22	教育関係機関 和歌山県教育庁 紀南教育事務所		
23	教育関係機関 紀南六高校代表		
24	教育関係機関 西牟婁養護教諭研究協議会高校ブロック代表		
25	教育関係機関 南紀高等学校		
26	学識経験者 文京学院大学(准教授/公認心理師)		
27	学識経験者 田辺市民生児童委員協議会 (主任児童委員)		
28	学識経験者 学識経験者 龍神地区 (民生委員・主任児童委員等)		
29	学識経験者 学識経験者 大塔地区 (民生委員・主任児童委員等)		
30	学識経験者 学識経験者 中辺路地区(民生委員・主任児童委員等)		
31	学識経験者 学識経験者 本宮地区 (民生委員・主任児童委員等)		
32	田辺市役所	保健福祉部長	
33		子育て推進課	
34		商工振興課	